

令和2年12月9日

1. 出席議員

議長 山口昌宏
1番 坂口正勝
3番 猪村利恵子
6番 吉原新司
8番 古川盛義
11番 松尾陽輔
13番 石橋敏伸
15番 松尾初秋
18番 牟田勝浩
20番 江原一雄

副議長 末藤正幸
2番 豊村貴司
5番 江口康成
7番 上田雄一
9番 吉川里己
12番 池田大生
14番 宮本栄八
17番 川原千秋
19番 杉原豊喜

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局 長 川久保 和 幸
次 長 山口 美矢子
議事係 長 奥 幹 久
議事係 員 田中 弘 一
総務係 員 岩本 英 則

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	小	松		政
副	市	長	北	川	政	次
教	育	長	松	尾	文	雄
総	務	部	山	崎	正	和
総	務	部	諸	岡	利	幸
企	画	部	庭	木		淳
営	業	部	古	賀	龍	一 郎
営	業	部	山	口	智	幸
福	祉	部	松	尾		徹
こ	ど	も	牟	田	由	紀 子
こ	ど	も	永	尾	淳	一
ま	ち	づ	野	口	和	信
環	境	部	高	倉	秀	昭
総	務	課	後	藤	英	明
企	画	政	松	尾	謙	一
財	政	課	弦	卷	一	寿

議 事 日 程 第 3 号

12月9日(水) 9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

令和2年12月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
4	14 宮 本 栄 八	1. 住民参加行政 2. 宿泊施設支援 3. 都市計画マスタープラン 4. アセット計画 5. 新幹線開業 6. 水道事業の課題 7. コロナ対策の今後 8. G I G Aスクールの今後
5	3 猪 村 利 恵 子	1. 子育て支援について 1) 子育て総合支援センターの取り組みについて 2) 保育士不足について 2. 事業者支援について 1) 緊急つなぎ給付金について 2) 今後の支援について 3. 新幹線開業に向けた取り組みについて 1) 高架下を含めた駅周辺の整備の進捗状況について 2) 計画策定等について
6	7 上 田 雄 一	～武雄市の今後の方向性について～ 1. 危機管理について 2. まちづくりについて

開 議 9 時

○議長(山口昌宏君)

皆さんおはようございます。前日に引き続き本日の会議を開きます。

日程に基づき、市政事務に対する一般質問を続けます。

それでは、14 番宮本議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんおはようございます。これより、14 番宮本栄八の一般質問をさせていただきます。

今回も 8 項目出しておりますけれども、急いでやっていきたいと思えます。

まず、市民の方はあまり知らないと思えますが、構想 10 年、着工 20 年をかけた鉄道高架・区画整理事業が昨年元年に清算業務を終了して、本年度、特別会計も廃止されております。

この鉄道高架、区画整理は紆余曲折、市民論議の歴史でもありました。特に南国ビル移転時までは活発だったと思えます。

当時は、社会開発から漢字の「街づくり」、平仮名の「まちづくり」と変わり、市民参加、市民論議が活発にされてきました。

その頃、市の計画をコンサルタント会社に発注するという方式が始まっていた。でも、そのとき年配の人たちは、都会のコンサルタント会社に発注するごたあぎ職員は要らんというぐらい、自分たちのまちのことは自分たちが知っている、自分たちが考えるという気概があったのだと思えます。

しかし、時代や内容も複雑になり、まずはコンセプトを地元で決めて、そしてコンサルに発注し、それをたたき台にしてまた市民論議をしていくというふうな形がしばらく続いていたと思えます。

ただ、近年の市民論議がどうなのかというと、私はちょっと、昨日の牟田議員のお話じゃないですけども、以前に比べ低調ではないかなというふうに感じます。

その原因的なものをちょっと見ていくと、市の大きな計画をコンサルタント会社に発注し、途中はよく分からずに年度末近くになって案が出され、2 週間のパブリックコメントを経て、案がほぼ変わらずに決定すると。そして、その市民の意見は、その計画案の一番裏にまとめて列挙されているだけで、それが本題のほうに波及して変換されたというのがないように感じるわけなんですよね。

そういうことで、この鉄道高架、区画整理の一応、終えんを迎えた今日、もう一回、住民参加行政というのを問い直してみたいということで、出しました。

そして、そう言いながらも、今、市の中でも、いいこともされております。それは、ポータルの中にある「ご意見コーナー」です。

以前は多分、「ご意見コーナー」のアイコンが大きかったので、平成 27 年、平成 28 年までは 10、10 ぐらいで出ておりましたけれども、この 2019 年、20 年とかは全くありません。

その原因は何かなと思ったのは、分かりませんが、アイコンが小っちゃくなって、ポータルが一番下に小っちゃい文字の同じ並列で書いてあるところに「ご意見」と書いてあるから、クリックをする人がいないのかなというふうに思ひまして、この内容はなかなか答

えはいいんですよね。極端に言えば、議会の答弁よりも丁寧に書いてあるときもあるんですよ、市民向けっちゃうことで。

だから、こういういいのをもっと知ってもらって、2年間も1件もないじゃない形に持ってってもらいたいと思うわけなんですけれども、この点について、この「ご意見コーナー」の充実についてお尋ねします。

○議長（山口昌宏君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

おはようございます。まずもって、武雄市ホームページ上に記載しております情報の配置につきましては、市民の皆様方にお届けしたい情報——例えば最近で言えば新型コロナウイルス感染症に関する情報や、市内外の皆様方にお届けしたい情報を優先的に、また、見やすいように配慮しながら配置しております。

議員御質問の「ご意見・ご要望のコーナー」につきましては、先ほど言われました一番下のほうにしか掲載しておりませんが、その後の議員の御質問であります、28年度以降、回答について載せていない原因につきましては、個別具体の案件に関する御意見、御要望が増えまして、オープンな場で回答することに適さない事案が増えたために、一律に掲載を行わないように運営を見直したところでございます。

○議長（山口昌宏君）

14番宮本議員

○14番（宮本栄八君）〔登壇〕

あまり皆さんに知らせたくない情報というのですかね。

でも、この中には、よくある質問とあって、結局みんなが「あっ、そうそう」と、聞かなくてもよかったというのがたくさんあるんですよ。だから、全くその2年間、一つも表に出せるような質問がないというのがちょっと、私としては疑問かなと。

そいけん、やはり少ないというか、1ページを出してスクロールして、一番下のここにあるんですよ。多分みんな気づかないと思うんですよ。だから、それはそれとして、意見がどれだけ出ているのかちょっと分かりませんが、これでありますと言っても、ほぼ皆さん分かりません。

それも、市のホームページを出して「ご意見・ご要望」を出して、「これまでのご意見」を出して、御意見の一覧の中から選んで御意見を見るというような感じで、ちょっと1回説明されても多分たどり着かんと思うわけですよ。だから、そういうことでよろしく願い申し上げます。

そして次は、これもいいなと思うのは、予算の記者発表資料です。これは昔なかったと思うんですよ。

それで、記者の方に絵がついたやつをお見せするわけでしょう。それは記者の人がその絵を生かして報道してくれるという狙いでされていると思うんですけども、結局は紙面の都合でその絵まで載せない形での報道だから、せつかくの作成が十分に生かされていないのかなというふうに思います。

それは、ホームページにはありますけれども、それもまた「ホーム」について「武雄市議会」を出して、「定例会・臨時会」を出して、「12月定例会」を出して、「提出議案」とそこまで届かないといけないんですよ。

私も職員さんから1回聞いてはいたけれども、途中で、もう一回電話して開けたという格好ですので、ホームページも開きにくいんですよ。でも、内容はこういうふうに、一目して分かりやすくできています。宝の持ち腐れになっているんですよ。

だから、これを市報に全部載せるのは紙面の都合があると思いますので、回覧に取り付けて、ホームページのさっき言った、ホームページの行き方、こういう行き方を説明すれば、関心のある人は見て、予算に対する共通認識というんですかね、そういうのができるんじゃないかなというふうに思いますけれども、これをペーパーで回覧とかにつけてやることのできないかお尋ねします。

○議長（山口昌宏君）

山崎総務部長

○山崎総務部長〔登壇〕

おはようございます。議員御提案の件ですけれども、実際に回覧となりますと、各世帯に回覧されるタイミングといいますと、議会開会后しばらくたってからの時期となることや、また、内容を正確に伝えるためには補足説明が必要である、また、予算案の段階であるにもかかわらず決定事項のように受け取られる可能性が高くあるなどから、予算の記者発表資料を回覧することについては、広報広聴の面で十分な効果は見込めないというふうに考えております。

○議長（山口昌宏君）

14番宮本議員

○14番（宮本栄八君）〔登壇〕

今、何か矛盾することを言いましたよね。

回覧を回すのは遅いから時期遅れと。でも、これを出したのは議会に通る前だから時期尚早と。何か、両方のことを言われているんですけども、結局これを出して、議会に通った後、通らんやったやつだけを減らして回覧で回せばいいわけでしょう。

だから、何かせんための理由を両方に分けて言っているように聞こえますので、せつかくいいのがあって、市長さんがテレビ放送で言うくらいのことだから、もっと回覧してもらいたいんですけども、これを出すこと自体がいけないんですか。

私がコピーして、区長さんに回覧で回してもらうちゅうことは駄目なんですか。この資料自体を使うことが駄目なんですか。

○議長（山口昌宏君）

宮本議員、モニターを使うときには、「あれを」、「これを」じゃなくて、ちゃんとした言葉で言ってもらわないと聴いている人には分からないと思いますので、その点、注意してください。

山崎総務部長

○山崎総務部長〔登壇〕

資料の活用について制限をかけているということではありません。

回覧した場合には、先ほど申したような事案が発生するおそれがあるということから、十分な効果が見込めないという判断させていただいているということでもあります。

○議長（山口昌宏君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

効果はあると思うんですよ。

そして、説明が要るようなのは説明をつけていいじゃないですか。特に説明が必要なやつは外せばいいし、これを先ほど言いました、私が利用して区民に知らせることは可能なんですかね。

○議長（山口昌宏君）

山崎総務部長

○山崎総務部長〔登壇〕

先ほど申しましたように、資料につきましてはオープンにしている部分でありますので、御活用させていただいて結構かと思います。

○議長（山口昌宏君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

私ができる、市ができんというのもちょっとおかしいかなと、少し区長さんとかに聞いて考えてみたらどうかなというふうに思います。

一応、今日の答えは今日の答えで聞いておきます。

続いて、宿泊施設支援です。

今度の記者発表の中にも、新規投資について、投資された宿泊施設に対して支援をすると。

それはそれでいいのかなというふうに思うんですけども、今、宿泊業者の方のお話を聞くと、投資どころの話じゃなかりょうと。

今、従業員さんを守ったり、この施設をさびつかせんために、借入れをしてというわけで

すよね。投資じゃなくて借入れと言いきゃあわけですよ。

借入れならあれですけども、結局そうなってくれば、投資以外でも結局、宿泊施設の人自己所有物件が多いので家賃補助というのも当たらないんですよ。

そして宿泊施設というのは、ある意味、設備産業ですもんね。その建物自体が設備産業なわけですよ。だから、そちらのほうにも何かしら支援をしていいんじゃないかなと思います。

そういうふうなことで考えると、30年くらい前に航空会社が「陶磁の里」と言って、武雄市に観光客をたくさん送り込んできましたもんね。

そのときに、与田店というお土産屋さんが、今の東洋館の前の空き地というか、駐車場のところにあつたんですよ。でも、それだけでは足らんということで、観光協会に市が補助して、もう一つ、お土産店を造ったわけなんですよ。そしたら、その与田店は潰れました。

そして結局、武雄市が支援した観光協会も負担金というか、赤字補填が大きいので、そこも何年かしたら撤退したということになっておりますので、新規の応援も必要ですけども、今あるやつも守っとかんと元も子もないという形になるわけなんですよ。それも実際、経験もしてきているんですよ。

だから、今の現有の宿泊施設に対しても税の減免とかは、税を払われたやつを返すだけだから、私は、臨時交付金がなくてもできる事業でありますので、それとは言わず、何かしら現宿泊施設にも支援をしなくてはいけないんじゃないかなと思いますけれども、これは、市長さんって名指しはあまりしたことないんですけども、市長さんに答えていただきたいような気持ちで思っております。

○議長（山口昌宏君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

おはようございます。当然、既存の宿泊施設、本当に今、頑張っていていただいておりますので、そこに対しても私たちとしては、やっぱり武雄の灯を消さないためにしっかりと支えていくと、これは当然のことかと考えております。

○議長（山口昌宏君）

14番宮本議員

○14番（宮本栄八君）〔登壇〕

よろしくをお願いします。

それで、両方立っていくようなことを考えていただけたらと思います。

続いて、都市計画マスタープランについてです。

都市計画マスタープランを、私が担当課にも絶えずどうなっている、どうなっている——どうなっているというのは、この都市計画マスタープランが決まらないと、いろんな長期未着手の都市計画道路の見直しもできなければ、下水道の範囲も広げられないので下水道の補

助金も受けずに単費でやらんといかんと。

そして、主要道路についてもどこをするか決まらないから、今のような楠町線というか、コメリとかできたところを後追い整備してという格好になっておるわけですよ。だから、これが決まらんと、どれも頭打ちになってしまうわけなんですよ。

そこで、新聞報道で多久市のマスタープランの見直しというのが佐賀新聞に取り上げられて、その審議会の様子も画像で写っておりました。

そこで、多久市に行って、今、何のために見直しているんですかというのをお尋ねに行ったときに、もう答えは明確で、人口を増やしたいと。でも、今はそういう増やせるときじゃないと。そしたら、減らさないことをせんといかんと。減らさんためにはどうするかと。

それは、多久を3拠点に絞って、そこの都市基盤整備をすることによって住宅を促進し、人口減を食い止めると、5分ぐらいで言われるわけですよ。なるほどなと思ったわけですよ。武雄ではあまり、マスタープランの方針とか聞いたことなかったなというふうに思っ

それで今回、武雄市はマスタープランを3年もかけてすると。普通のマスタープランだっ

て2年ぐらいでできるものを、都市計画というハードだけのマスタープランを3年もかけて

すると。そこの基本方針は何なのかについてお尋ねします。

○議長（山口昌宏君）

野口まちづくり部長

○野口まちづくり部長〔登壇〕

おはようございます。都市計画マスタープランに関する御質問ですが、本市においても人口減少、高齢化が進んでいる現状において、医療、福祉、商業等の都市機能、居住の集約によるコンパクトなまちづくりと、これと連携した公共交通のネットワークづくり、併せて、近年頻発、激甚化する自然災害への対応として、防災の観点を考慮したまちづくりを目指す方針としております。

○議長（山口昌宏君）

14番宮本議員

○14番（宮本栄八君）〔登壇〕

コンパクトなまちづくりで、災害に強いまちづくりということですね。

それは分かるんですけど、もう少しそれをどういうふうに、山内、北方に拠点を置いてとか、その辺ぐらいまでちょっとあっていいのかなというふうに思うんですけども、一応そういうことで、コンパクトで災害に強いっちゅうことでしたよね。

それはもう具体的にどう生かされているかよう分からんとですけども、嬉野の都市計画マスタープランとかは、まず、素案というのを出されて論議されているとですよ。

ほいで、武雄市って何か素案的なものが、先ほどから言うように、たたき台的なものがい

それで、多久は、もうそういうのでオープンで、いろいろ話されて、話合いの内容も分かっているっちゅうふうなことなるんですけれども。

それで、結局、このマスタープランを3年度末に出すというわけですよ、3年度末。1年前倒しでできんかなって、さっき言われたごたあことをですよ、3年もかけんでできるんじゃないかなと。

そいぎ前倒しすると、——すみません。

言っているように、またこれで3年度を待つといたら、4年度予算に生かされんわけですよ。またそれからが、しばらくかかあわけですよ。

そいけん、せめて1年って言わんですけれども、半年前倒ししたら、来年度決めたら、次、4年度にはもうスタートできるんですから、そいぎ、その計画がこれにも、これにも、これにも作用してきて波及効果が大きいわけですよ、4年度のスタートのですね。

だから、それについて半年程度、前倒ししてできないのかお尋ねします。

○議長（山口昌宏君）

野口まちづくり部長

○野口まちづくり部長〔登壇〕

都市計画マスタープランについては、3年の計画でスケジュールに基づいて進めておりますけれども、現在、昨年度から現状の確認、地域での確認等を行っております。

今年につきましては、中学校区ごとの課題とか問題点を出してもらっております。

そういう中で今後、地域ごとの構想、市全体の構想等、そういうところに結びつけていくこととなりますけれども、来年度は用途地域、長期未着手の都市計画道路等もあり、そういうのも含んだ中での計画となり、全体計画、マスタープランに合わせてという計画になりますので、今の3年計画の中で進めているということになります。

○議長（山口昌宏君）

14番宮本議員

○14番（宮本栄八君）〔登壇〕

私が言っている意味は分かると思いますので、その4年度の当初予算にいろんなことができるようにですよ。

お話を聞くって言われたですけれども、各地に行って、どういうふうに思うんですかっていうことで、次のこととなりますけれども、今はまちをどう思っていますかちゅうことをちょっと調査に行っただけですよ。もう極端に言えば、アンケートで取れることを回っただけなんですよね。

だから、本当に必要なのは早くそれをつくって、今の計画では住民説明会はないですよ。だから、早くつくって、住民説明会をしてほしいと。

住民説明会の予定はないけれども、それをせんとやっぱり駄目と思うわけですよ。

だから、そのスケジュールの中に、前倒しも必要ですけれども、住民説明会をスケジュールの中に入れてもらえませんか。

○議長（山口昌宏君）

野口まちづくり部長

○野口まちづくり部長〔登壇〕

先ほども申しましたように、都市計画マスタープラン案についてはスケジュールに沿って現在作成中であり、計画的に進めているところでございます。

住民に対する意見反映については令和元年度に市民 2,000 人、候補生 500 人を対象にした都市計画に関するアンケートを実施しており、自由意見欄を設け、様々な意見をいただきました。

また、今年 9 月には各町区長会長及び公民館長から御推薦をいただいた方々と、公募で応募をいただいた皆さんで、市内 5 中学校区ごとに 20 年後のまちづくりをテーマにワークショップを開催しました。11 月には、5 校区合同のワークショップを開催し、校区外の参加者の意見を聴いた上で、校区ごとのまちづくりについて検討を深めていただいたところです。

このように、都市計画マスタープラン案の作成段階によって、住民の皆さんの御意見を反映させてきているところでございます。

さらに今後、原案に対してのパブリックコメントを予定しており、住民の皆さんの意見反映に努めていきたいと考えているところでございます。

○議長（山口昌宏君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

最初のお話はいいいわけですよ。でも、みんな知りたいのは、それを聞いてつくった案について説明を受けたいんですよ。

パブリックコメントをするからって、また同じような、同じ改訂になったですたいね。

じゃなくてですよ、さっき素案ってあったじゃない、嬉野の素案って。素案のほうもつくって、それでみんなで話し合うって。

そんな感じに、またこれちょっと言わんといかんと思いますので、また今度お話ししたいと思います。

続いて、アセット計画です。

アセット計画を見ていると、相撲場を廃止すると。

でも、町子連とか相撲連盟に、その後ちゃんと話に行っているのかなと。

たまたま今年はコロナで相撲大会なかったですけども、もう 30 年も 40 年も続く相撲大会をやめんといかんかどうか、議論になるわけですよ。新たなところですかですね。

そいぎ、そこをずっと追って話をしてあるところが見えんわけですよ。

そして、その後の駐車場もどういう駐車場にするかも分からんし、勤労者福祉会館についても会館機能を文化会館に移すっていうけど、文化会館をどう変えるかも分からんし、勤労者福祉会館のシルバー人材センターというのについては何も触れていないから、どこに行ってもいいか分からんわけですよ。

この辺を、結局、……（発言する者あり）議案に入らうとのいきさつですよ。どうするかするじゃなくて、その話の詰め方について、責任者は一体誰なのかをお聞きします。

○議長（山口昌宏君）

宮本議員、提出された議案の内容には、触れないようにお願いします。

○14番（宮本栄八君）（続）

はい。詰め方についてです。内容じゃなかです。

○議長（山口昌宏君）

山崎総務部長（「モニターに書いてある」と呼ぶものあり）

〔14番「よかろうもん、会館、シルバー人材。（発言する者あり）よかろうもん、廃止しますとか書いとらん。どうぞどうぞ。責任者について言うてくれる」（笑い声）〕

○山崎総務部長〔登壇〕

計画に基づきます各施設の具体的な取組につきましては、各施設の所管課において実行していくということにしております。

また、計画の全体的な進行管理につきましては、アセットマネジメント推進室で行っていくというふうに考えております。（発言する者あり）

○議長（山口昌宏君）

14番宮本議員

○14番（宮本栄八君）〔登壇〕

これはアセットに書いてあることやけんですね。議案の件を言っているわけでもなかし。

そういうことで、担当者っていうわけですよ。そいぎ、担当者が全然進みを——私は今、担当者の進行管理が問題かなって、こう思ったりするわけですよ。

そいぎ、例えば今、担当課、スポーツ課は、この相撲場について事前の話みたいなことはしてあるんですかね。

○議長（山口昌宏君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

相撲場の統廃合につきましては、関係団体と少しずつでございますけれども、事前の打合せをしております。

○議長（山口昌宏君）

14番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

その反応はどうですか。

○議長（山口昌宏君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

統廃合に対する賛成もあれば、反対という意見もございます。

○議長（山口昌宏君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そこを、もうちょっと皆さんにも見える形でしていただきたいと思います。

今日は一応、担当課が責任で、進行管理がアセットマネジメント推進室というけれども、その進行管理というのが、どこまでを進行管理、その課がどんどん進めているか進めていないかのチェックもするんですかね。

○議長（山口昌宏君）

山崎総務部長

○山崎総務部長〔登壇〕

アセットの個別施設計画につきましては、9月に全ての計画がそろったような状況になっております。

計画の全体的な進行管理や期間ごとの見直し等につきましては、全庁的に連携を図りながら行っていきたいというふうに考えており、個別の施設ごとの対策につきましては、各担当課で責任を持って実行していく必要があるというふうに考えております。

○議長（山口昌宏君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたら、例えば朝日に体育館があるですね。今は適切に維持をして長くもたせると、期限限界までもたせると、こうなるとるんですよね。

そいぎ、担当者がいろいろ調べて雨漏り問題になって、やっぱり少し改修をしたほうがよかと、こうなあですよね。そうしたときには、担当課がアセットマネジメント推進室に申し入れて変更するような感じになるんですかね。

○議長（山口昌宏君）

山崎総務部長

○山崎総務部長〔登壇〕

アセットの個別施設計画につきましては、40年後の先を見据えた格好の計画というふうになっております。

今議員がおっしゃったような個別に緊急を要する修繕等が発生した場合には、その都度、その都度状況を見ながら対応をしていきたいというふうに考えます。

○議長（山口昌宏君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

アセット計画は絶対のものではないということですかね。

でも、担当者が話を進めるに当たって何というかと言うと、「アセット計画に書いてあるですもんね」と、こう言いさあわけですよ。理由を言う前に「アセット計画に書いてあるですもんね」って。そいぎ、そのとおりにせんばいかんっていうふうな観念にとらわれているところもあるのかなちゅうふうにちょっとと思って、質問しました。

次に、今アセット計画をしてあるんですけれども、西体育館とか廃止になっていますけれども、そのままあるわけですよ。

私から考えれば、行政財産という右のポケットから、普通財産という左のポケットに移し替えて仕事が終わったみたいな感じになっていると思うんですよ。なので一切、市民から見たら何の変化もないと、こういう形になっていると思うわけですよ。

というのは、この土地について、アセットというか建物についてになっているもので、構築物になっているもので、結局、土地とか一般財産になったときのそのことが全然触れていないから、もうこういうふうな感じで右のポケットから左のポケットに行くというパターンが続いていくんじゃないかなと。

そういうふうになれば、やっぱり跡地利用、例えば今度、公営住宅ができるとか、その後の利用とか、そういうことで、土地アセットをつくらんと、今みたいに右から左にポケットを変えるだけになるんじゃないかなというふうに思って、その土地アセット策定っていうんですかね、そこまで大きくなくてもいいですけれども、その跡地利用、活用策を早急につくらんと意味がないというふうに思いますけれども、その辺についてお聞きします。

○議長（山口昌宏君）

山崎総務部長

○山崎総務部長〔登壇〕

施設の跡地等につきましては、それぞれの状況に応じて判断し有効活用していきたいというふうに考えております。

また、市有地の利用計画につきましては、行政改革での財源確保の観点等からも検討していきたいというふうに考えております。

○議長（山口昌宏君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

土地のほうもして、行革に役立てていただきたいと思います。よろしく申し上げます。
続いて、新幹線です。

ハブ都市。新幹線開業ということは、ハブ都市建設ということとほぼイコールで進められている感があります。

これまで、その内容を見てみますと、一応意見をまとめられて行動計画というものをつくってあります。

この辺までは確かに、市民の意見を聴いてKJ法といういろんな意見を出すやつを網羅してしてありますけれども、牟田議員と一緒に聞いた商工会議所の説明会では、まだ未確定ですって書いてあるわけですよ。まだ、実施する項目が未確定になっとうわけですよ。

そいぎ、私は、今回は最低、温泉情緒とかバスセンターとか、そういうことはもうちょっとしてもらわんといかんかって自分自身は思っていたわけですけども、その中にこの工程図っていうのがあります。

工程図というのがあるんですけども、これが工程図です。これが大体6個に分かれとって、それは未確定っちゅうわけですよ、みんな未確定と。

そして、各項目をずっと引き上げてみますと、41 から 10 まで 176、済みが3、残り 173 あるんですよ。これはどう見てもちょっと難しいなど。まだ未確定で 173 もあって。

そして特に、この温泉駅周辺整備と駅広のところですね、これになるんですけども、令和2年のところに、基本的に実施計画策定ってなってるんですよ、実施計画策定に。

そして、令和3年度に工事着工ってなっているんですよ。そしたらもう令和2年も、もう正月を挟んでちょっとしかないですよ。そこに実施計画って多分できんですよ。ということは、もうこの計画がショートしているなというふうに思ったわけなんですよ。

そこで、こういう 173 目を未確定で並列に進んでいっては、牟田議員も言う1年半というんですかね、2年というか1年半ぐらいと思うんですけども、そこでできるのかなってちょっと思ったわけですよ。

だから、この 173 方式をやめて、緊急項目 10 ぐらいに絞って、何ていうかな、今はやりの全集中というんですかね、そういうふうな感じでやっていかんと時間的にアウトになるんじゃないかなっちゅうふうに思うわけなんですよ。

だから、ここでシフトチェンジというか、集約の仕方をちょっと考え直さんといかんのじゃないかなってという提案なんですけれども、どうでしょうか。

○議長（山口昌宏君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

議員御指摘の行動計画、いわゆるアクションプランでございますが、この 173 の事業と申されましたけれども、まず、大きな柱として6つの柱がございます。その柱にひもづけた部

分の事業が 35 ございます。

議員がおっしゃられているのは、その 35 にぶら下がっている一つ一つの細かい項目であるというふうに考えておりますが、私どもとしては 6 つの柱の中に 35 の事業を抱えた中で、その内容に沿って取り組むべきアイデア等を入れ込んでおります。

また、予算や運営主体など検討を行いながら協議を進めているところでございます。

議員御提案の、優先順位をつけてというふうな考えなのかなと思っておりますが、当然ながら開業まで取り組むべきものについて、また、開業以降、実施するものなどについて、この 35 の事業については、私どもの中で優先順位をつけて取り組んでいるところでございます。

○議長（山口昌宏君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

優先順位をつけてしているなら、駅のハード整備、高架下観光交流整備事業を令和 2 年に基本設計・実施設計ですよ。基本設計は見せてもろうたことないですよ。ということは、まだ実施設計まで行かないちゅうことでしょうか。ということですよ。

そして、駅の整備でも一般車の一時駐車場とバスの待機所の設置実施設計って書いてあるんですよ。実施設計は見せてもらったことないんですよ。

だから多分、言われる話もあるんですけども、客観的に見たら絶対に遅れているですよ。

だから、さっきの大項目ってありますけれども、大項目の中の小項目って同じ内容じゃないですよ、全部違う内容なんですよ。

あまりもう言いませんけれども、優先順位をつけているというなら、その優先順位を明らかに示して、タイムスケジュールどおりにやっていただきたいと思います。

そして、次です。次は、武雄温泉駅周辺整備です。

これについても、この図案はもう過去のもので今とは全く違うって言いながら、まだこの図を出しながらですよ、そして、新しい案については 3 年度の末と言われるわけですよ。2 年度末の 3 年 3 月に出すってこう言われるわけですよ。その辺もちょっと私から言うと、遅いんですよ。

もう嬉野はつくって、温泉の掘削に着手していますよね。でも武雄って、足湯の湯をどこから持ってくるかさえ決めとらんですよ。

ということで、まずはその論議を進めるためには、この駅周辺整備のパス図を、もう 3 月と言わずに、年明けすぐに出してもらいたいと思いますけれども、どうでしょうか。

○議長（山口昌宏君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

駅前広場の整備のイメージ図でございますが、今、宮本議員が出されているものについて

は前の部分だと思います。

新しいイメージにつきましては11月の市報、また、12月の市報でも掲載をさせていただいているところでございます。

○議長（山口昌宏君）

14番宮本議員

○14番（宮本栄八君）〔登壇〕

でも、この間の資料でもそれはついていないですね。画像で出して、これは未確定ですので、まだ見せられんみたいなことやったですね。——すみません、商工会議所での説明会ですね。

だから、そこは確定していない、見せられる状態じゃないというふうに私は思っていますけれども、都市計画課はどうですか。

○議長（山口昌宏君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

先ほども申し上げました、見せられないじゃなくて、イメージ図等については掲載をしております。

また、先ほどからアクションプランについての、前後している部分もあるというふうな御指摘がございますけれども、当然、計画でございますので、進行する中で前後する部分は若干あるかとは思いますが。

○議長（山口昌宏君）

14番宮本議員

○14番（宮本栄八君）〔登壇〕

都市計画課の担当ではどうですかね。

私、都市計画でちゃんと見せてもらったことはないんですけども。

○議長（山口昌宏君）

野口まちづくり部長

○野口まちづくり部長〔登壇〕

先ほどの営業部長の回答と同様となっております。（笑い声）

○議長（山口昌宏君）

14番宮本議員

○14番（宮本栄八君）〔登壇〕

ちょっと違うと思うんですけども、早速この後、担当課に行って確認したいと思います。

続いて、前倒しの話ですけども、この3月の発表を前倒して発表できないかをお聞きします。

今のお話じゃあ発表したっちゃうことになると思いますか。前倒し発表についてお聞きします。

○議長（山口昌宏君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

先ほどから申し上げておりますが、もちろん最終の形ではございませんが、中間を、出来次第ということで、11月、12月の市報等でも公表をしているということでございます。

○議長（山口昌宏君）

14番宮本議員

○14番（宮本栄八君）〔登壇〕

都市計画課は、そいぎ最終段階じゃなかから出されんというて出さんやったのかなと思う。でも、その途中は出しているということなんですかね。

そしたら、もっと議論を進めてもらいたいと思います。

この財政計画を見ても、ここの令和3年のところ、支出が非常に少ないんですよ。だから、はっきり言えば、ここでやったほうがいいんですよ。

ということで、次に行きます。水道事業についてです。

西部広域水道企業団に加入して広域のメリットもあると思います。

そこで、私がちょっといろいろ企業団と話す中で、今後は市の政策的な配管、本管の配管は西部広域水道企業団では考えていないということを——基本、受益者負担だというふうなことを申されたので、今まで武雄市では、給水管は十分ですけれども、ここの本管は市が入っていたと思うわけですね。事前投資していたと思うんですよ。

そして、西山線も片方に入っていて、以前は反対側から引いていたやつを政策的に両側引いて、今の住宅街というんですかね、ここの西山線の住宅街が急に発展したわけなんですよ。だから、そういうことにより、ちょっと政策的な配管ができんと、住宅ができん。

ここ自体も、政策的には後から入れた配管ではあるんですけどもね。もともとは南側しか配管なかったもんで。

ということで、この政策的配管の関係で住宅政策が関わってきますので、企業団はできんと言うんですけども、今後、市道とか何とかに政策配管が、できるのかできんかということと、できん場合、市で政策配管をして、受益者に分担して今の下水道のようにやっていくのか、その辺についてお聞きします。

○議長（山口昌宏君）

高倉環境部長

○高倉環境部長〔登壇〕

おはようございます。議員からのお尋ねの、「市が政策的に行う事業についての水道管布

設」の質問でございますが、現在、水道事業を行っております佐賀西部広域水道企業団に確認をいたしました。「市が行う政策的な案件に係る水道管の布設について、市からの協議を受けて判断をする」という回答でございました。

2点目の、「今後の市が計画的に水道管を布設すれば」という御提案でございますが、武雄市は本年4月より水道事業を佐賀西部広域水道企業団に移管をしております。現在、水道事業者ではないというところでありますので、市が水道管を計画的に布設することはできません。よって、議員からの御提案をする考えはございません。

○議長（山口昌宏君）

14番宮本議員

○14番（宮本栄八君）〔登壇〕

取りあえず、企業団にお願いをしてみることですたいね。

企業団ができんと――例えばこの西山線やったとするじゃないですか。

こっちは企業団がしているよと、こっちは企業団はしませんと言われたときに、みんながこっちから管を引いてくるというのは不便なことで発展もしませんので、何も考えを市が出す必要はないですけども、水道配管基金みたいなやつをつくって事前に入れとって、取り付けた人からお金をいただければ、途中、途中で家が造れるんですよ。結局、隣、隣に行かんでもできるわけですので。

現状、ほかの市に聞いたら、そういう市街地があまり広がっていないということですので、ちょっと事例も少なくてもあれなんですけれども、その辺も次に現実に出てきた場合を想定して、頭のトレーニングをしていただきたいと思います。

続いて、配管による「めり張り」というんですか、この水谷線ですね、小楠水谷線のほうには市道を整備して水道がきているからいっぱい家が建っていますよね。でも、その西側のほうは水道も来ていないので全く、農地のままです。

だから、そういう矛盾というのが出てきますので、これは下水道も関係しているんですけども、その辺の克服というのも考えていただきたいと思います。

それから次、コロナ対策についてです。

通告を出した後に国が経済対策をつけてきたので、こういう話は不必要な話になるのかもしれないんですけども、コロナの臨時交付金の二次が残り3,000万円になっておりますというところで、今後、国からの金がなくても独自に市がコロナ対策の予算を、前みたいに基金から取り崩したりしようと考えているのかどうかについてお聞きします。

○議長（山口昌宏君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

これまでも新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金のみではなく、一般財源や

財政調整基金等を活用し、感染対策に取り組んでまいりました。今後も同様の考え方で進めてまいります。

○議長（山口昌宏君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

久々に明確なお答えで、すっきりしました。

そうしたら、もう1点は、今、新生活様式支援事業というのを11月2日に市長が専決されて、承認を我々が25日にしたんですけれども、もう20日の時点でこの専決が終了しちゃったという話で、びっくりしたわけですね。もう終わった後のやつを議決したということ。

そうしたら今、それは結局、新生活は需要が多いっちゃうことですので、グループ補助金の「フレフレ」がまだ残っているやつを、こっちのほうに回したほうが市民のためになるんじゃないかというふうに思うんですけれども、どうでしょうか。

○議長（山口昌宏君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

新生活様式導入支援事業補助金についてでございますが、議員御指摘のとおり、予算の上限に達しましたために11月20日で受付を終了しております。

今後につきましては、状況等を見ながら必要に応じ対策を行っていきたいと考えておりますが、現時点でこの部分を継続するという予定はございません。

また、「フレフレ補助金」等の利用をしてはどうかという御提案ですが、「フレフレ補助金」につきましては、現在も事業が進行しているところがございますので、この予算を利用することはできません。

○議長（山口昌宏君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

これがもう承認する前に終わっているぐらいに需要があるわけですよ。だから、考えることはないと思うとですよ。需要があるとこれだけ分かって。

「フレフレ」は期限を延長しているんですよ。12月18日に終わるのを、令和3年2月まで、赤ペンで修正して伸ばしているんですよ。だから、誰が見ても需要の差というのは明確なんです。だから、そこについてもう一度考えてほしいと思います。

次に、GIGAスクールについてです。

パソコン導入が11月末に全て完了しました。

私、心配するのは以前から、もう10年前からやっていますけれども、あまり活用がない

ということですよ。

今度、学校を訪問したときに、以前のKEIANから3種類、東芝の2種類。3種類見せてくださいって、そして持ってきんさったとですよ。新品同様ですもんね。もうあんまり手垢のついて、汚れとるわけじゃないとですよ。

今度、廃止して、キーボードとかついていないから廃止するんですけども、はっきり言って新品同様なんです。だから結局、やっぱり使い込みができとらんということなんですよ。

だから、今度それをせんためには、フル活用。今度は、「個に応じた」だから、自分でできるわけですよ。自分の家でできるんですよ。しようと思えば、学校の授業時間と関係なくて、物すごくできるわけなんです。

しかし、今は中学生の教材と一部小学生ですかね、ちょっとソフトがあるということですけども、それは私から言えば本格的なあれではないですもんね。

そこで、以前も教育長に、そういう利用計画をつくってほしいと言ったら、「今後」と言われたんですよ。それは聞いとるんですけども、具体的に利用計画がいつ頃策定されるのかお聞きします。

○議長（山口昌宏君）

松尾教育長

○松尾教育長〔登壇〕

おはようございます。GIGAスクール構想により、新しい学習用端末が11月末に全ての学校に配付されました。

今御指摘の利用計画についてですが、小学校はもう既に新しい学習指導要領の下での学習が進行しております。中学校も来年度から新学習指導要領による学習が進むわけですけども、この学習指導要領が目指すものは、主体的で対話的な深い学びということで、その実現に向けてこの新しい端末が非常に有効で、学習のツールとなっています。

その授業改善に向けて計画をしていきますが、今作成しているのは、この時期までに先生方はこういったスキルをつけてほしい、子供たちには、低学年はこの辺まで、中学年はこの辺までというようなスキルをチェックできるような表を作っているところでございます。

以上です。

○議長（山口昌宏君）

14番宮本議員

○14番（宮本栄八君）〔登壇〕

そのスキルの計画っていうか、そこにソフトがたくさん導入されるか、そういうこともあるのか、今の話ではよく分からんですけども。

だから、もっとみんなが見て、市民の方が見て、「あら、これはどんどん使えんさあね」

って、家でもこがんで使いよんさあって、ソフトも市が用意しとんさあ、金かかるけんが、それはもう独自につくっとんさあとかですよ、そういうふうに見て、「ああ、使いんさあ」って分かるような計画にさせていただきたいということをお願いして、以上で質問を終わります。

○議長（山口昌宏君）

以上で14番宮本議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、5分程度休憩をいたします。

休	憩	10時00分
再	開	10時7分

○議長（山口昌宏君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、3番猪村議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆様おはようございます。議長より登壇の許可をいただき、3番猪村利恵子の一般質問をこれより始めさせていただきます。

先日来、各議員からもございましたけれども、昼夜を問わずコロナウイルス——失礼いたしました。マスクに慣れておりました。外すとちょっと恥ずかしいですけれども、失礼いたしました。

昼夜を問わずコロナウイルス感染症対策に従事くださっている医療関係者の皆様、また、お支えくださる多くの皆様方に心より御礼を申し上げます。

また、お亡くなりになられました方々へは心よりお悔やみを申し上げるとともに、いまだ感染症と闘っておられる、闘病生活を送っておられる方々へはお見舞いを申し上げ、一日も早い回復を心よりお祈りを申し上げさせていただきます。

依然として続く感染症感染者への誹謗中傷、心ない言葉や嫌がらせを受け、つらい思いをされている方々がたくさんいらっしゃるとの報道が日々続いております。

9月議会の冒頭でも申し上げましたけれども、するほうが悪い、いじめもそうですけれども、するほうをかばっては解消の糸口は見出せない、自分がコロナに感染したら、自分の大切な家族がもと、自分事として考え、まず、私たち一人一人が心の中で思いやりや感謝の鐘を鳴らしていこうではありませんか。

そして、次に、第3波が押し寄せ、流行期、医療破綻に陥る自治体に、自衛隊に出動要請まで出る事態となっていることは皆様も御存じのとおりだと思います。

私が気をつけていること、小さなことですが、（消毒液を提示）ポケットに消毒液を入れております。出かけるとき、そして買物をしてお金を触ったときでも、すぐポケットから出して消毒ができる対策を取っております。出張に行くときでもそうです。自分にもす

る、一緒に同行された方にも振る、それを心がけております。

毎月、福祉課から市報に、コロナ対策に対する注意喚起を促すポスター、レジュメじゃないですけども、用紙を入れていただいております。本当にありがたいことです。

もし、予算が許すならば、こういう消毒液を子供たちに配る、高齢者さんに配る、そういったことも一つの命を守る手だてではないでしょうか。もし、予算があればですけども、また、こういうことも用紙の中に――保存版の中に入れていただければというふうに思っているところであります。

小さなことかもしれませんが、自分の命は自分で守ることがどれだけ大切なのかということ身を染みて感じております。この消毒液1本で、ひょっとして感染が防げるかもしれない、かもですけども、そういったことで、ぜひお願いしたいというふうに思うところでございます。

それでは、質問に入らせていただきます。

今回、子育て支援について、子育て総合支援センターについて、保育士不足について、それから、ほかの議員からもたくさん質問が出ておりますけれども、事業者支援について、緊急つなぎ給付金について、今後の支援について、それからこれもそうですけれども、新幹線開業に向けた取組について、高架下を含めた駅周辺の整備の進捗状況について、計画策定等について今日は質問をさせていただき、議論を深めていきたいというふうに思っております。

それでは、まず、子育て総合支援センターについてでございます。

北方にあります子育て総合支援センターの取組について、それから、保育士不足についての質問をさせていただきます。

初めに、子育て総合支援センターについての事業内容について、改めてですけどもお尋ねを申し上げ、最初の質問にさせていただきます。

○議長（山口昌宏君）

牟田こども教育部長

○牟田こども教育部長〔登壇〕

おはようございます。子育て総合支援センターは、子育て中の親と子がいつでも気軽に相談できる場所、親同士をつなぐ役割として事業を実施しております。

主な事業の内容ですが、子育て中の方を対象とした事業といたしまして、子育て総合支援センターや公民館や学校等での広場事業、父親の育児イベント、妊婦対象の教室、フェスタの開催、それから、お子さんの一時的な預かりやお子さんの送迎を行うファミリーサポートなどを実施して、子育てをする方の孤立を防ぐことにもつながっております。

また、子育て支援者の研修として、子育てサポーターの養成講座、そして市役所の手続中にお子さんを抱っこする「抱っこボランティア」の研修や、子育てサポーターの研修、保育士等を対象としたスキルアップ研修などを実施して、子供に関わる方々の質の向上を図り、

子供の幸せにつながることを目指しております。

これらの事業を、ホームページの子育て情報サイトやブログ、そして「おひさま子育て通信くすくす」などでも発信をして、多くの方に御利用をいただいているところです。

○議長（山口昌宏君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

多岐にわたり、子供や、そして親支援、土曜日まで開設をしていただき、相談事業も民間とつながるシステムを取っていただいているということに対して敬意を表したいところでございます。

市長の政策一丁目一番地は子育て支援ではなかったかというふうに思っておるところでございます。

なぜ私がこのような質問をしたかと申しますと、ある子育て中のお母様とお話をする機会がございまして、そのお母様がこうおっしゃったんです。

「私は結婚して子供ができなかった」と。「やっと子供を授かって出産をしました。それが、障害がある子供です」とおっしゃいました。手続やら検診やらで市役所を訪れたり、保健師さん、それから福祉課の皆さん方にいろいろ教えていただきながら、その中で子育て総合支援センターがあるから、そこに行ってみませんかというお声をかけていただいたそうです。

そこに行って、その職員の皆様方に非常によくしていただいて、そして、そのお母様が、自分と同じ障害のある子供さんをお育てになっているお母様方とお話がしたいというようなことをセンターで申し上げられたそうです。そこで、そうですかということで、支援センター長をはじめ、職員の皆様がいろいろ試行錯誤してくださって、そういう一緒の障害をお持ちのお母様方と懇談ができる機会を設けてくださったそうです。そして、そのお母様がよかったと、自分の周りにそういう方がいらっしゃらなかったから、自分の子育てが非常に不安で、話を聞いたりできる場所があるとは知らなかったから、そこに行かせていただいてよかったと、そういうお話でした。

そして、支援センター長をはじめ、職員の皆様にお礼の——電話で失礼だったんですけども、そういうお声をいただいたんですよということでお話をいたしました。そしたら、センター長が、非常にいい講座ができて、これを継続したいなというふうにおっしゃってくださいました。

これは市長が目指す伴走型のきめ細やかな子育て支援の施策の一端が花開いているのではないかと、私は非常にそのとき感動を覚えました。

市長、このお話を聞いて、どのようにお考えになられるでしょうか。一言頂戴できればと

いうふうに思います。

○議長（山口昌宏君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

私は従来からしつこく言っておりますのが、どんな境遇であっても、環境であっても、安心して子育てができるまちを目指そうということは繰り返し、しつこく話をしております。

本当に今ありがたいお言葉をいただきまして、これは私が何か指示をしたわけではなくて、現場で考えて、そして創意工夫に取り組んで、センターでいただいたということで、大変我々も励みになるお言葉をいただいたなというふうに思っております。

社会において障害がある、あるいはなかなか家の経済環境も厳しいと、様々な皆さん事情を抱えていらっしゃる。むしろそれを足し上げると、そちらのほうがマジョリティなんじゃないかと思うことさえあります。

これからも、その部分を引き続き大事にしていきたいと改めて思った次第です。

○議長（山口昌宏君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

非常に困難を抱える、また、コロナ禍でもあります。先行き不安な時代になって、そして子育てについても非常にお悩みのお母様方、御家族がたくさんいらっしゃるというふうに思うところでございます。

困難を抱える子供や親の支援について、今後、そして今も含めてですけれども、どのようなことを考えられているのか、今回は支援センターに限ってでございますが、取組をお聞かせください。よろしく願いいたします。

○議長（山口昌宏君）

牟田こども教育部長

○牟田こども教育部長〔登壇〕

困難を抱えていらっしゃる方の支援ということでございますが、障害を持っているいらっしゃるお子さんへのセンターの事業の取組については御紹介をいただいたとおりでございます。子育ての悩みや気持ちの共有ができたこと非常に喜んでいただいております。

そのほか、多胎児を育てていらっしゃる保護者の方もいらっしゃいます。一人でも子育てするのは大変な中、多胎児を育てるということで、大変な御苦勞もあられることと思っております。

その多胎児を育てる方を対象に、毎月、子育ての楽しさとか悩み、それからお互いの育児法などを情報交換するためのサロンも開催をしておりますし、また、ファミリーサポート事

業については利用料を減額したりすることでそのような困った方、負担があられる方の子育て負担の軽減も図っているところでございます。

その他、センターの職員も非常に頑張っておりまして、利用者の声に耳を傾けて相談、各機関への調整などを行っているところでございます。

○議長（山口昌宏君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

多胎児支援も手厚く取り組んでいただいているとお話を聞いております。

先ほども申し上げましたけれども、コロナ禍でもあります。いろんな多岐にわたる相談などもあるというふうに残っております。どうかこれからも伴走型、そしてしっかりと寄り添っていただく事業に取り組んでいただきたいということ、それから、職員の皆様の取組に感謝、敬意を申し上げますところでございます。

次にいかせていただきます。保育士不足についてでございます。

なぜ保育士不足のことについての質問にするかというところでございますが、先ほどの障害をお持ちの子供さんのお母様が働かなければならない事情がおりになり、保育園を訪ねられたそうです。

そうすると、やはり障害をお持ちなので加配が必要になってくると。それから、すぐにその加配が見つかるか、保育士が見つかるかどうかははっきり分からないんですよというお答えを、何園も回ってそういうお答えをいただかれたそうです。

そのようなことで、市内の保育園、幼稚園、認定こども園の数について、まずお尋ねをしたいと存じます。よろしく願いいたします。

○議長（山口昌宏君）

牟田こども教育部長

○牟田こども教育部長〔登壇〕

武雄市内の教育・保育施設ですが、保育所が4園、認定こども園が12園、幼稚園が2園、地域型保育事業が1園、合計19園の施設がございます。

○議長（山口昌宏君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

次に、質問をさせていただきます。

市外からの利用も含めた園児数や保育士等の数について、重ねてですけれども、お尋ねを申し上げます。

○議長（山口昌宏君）

牟田こども教育部長

○牟田こども教育部長〔登壇〕

利用児童数ですが、市外からの広域利用を合わせて、12月1日現在で2,002名でございます。

○議長（山口昌宏君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

重ねてお尋ねを申し上げますが、市内の保育施設、園児、保育士等の数は適正であるか、武雄市内の数は適正なのかお尋ねをいたします。

○議長（山口昌宏君）

牟田こども教育部長

○牟田こども教育部長〔登壇〕

市内の保育施設等の利用定員は1,945人ですが、保育所定員の弾力的運用という制度がございます。定員の120%までの受入れをすることが可能となっておりますので、武雄市の施設の数と利用定員は適正であると考えております。

また、市内の教育・保育施設の保育従事者数ですが、370名おります。保育所の配置基準により、職員配置を確認して入所を決定しておりますので、利用児童数に対しては適正であると言えます。

○議長（山口昌宏君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

数も保育施設も適正だということでもあります。

しかしながら、なぜだか保育士不足は全国的な問題になっております。

これを御覧くださいませ。

就業継続、なぜ保育士の就業を希望されないのか、少ないのか。これが就業継続の場合ですけれども、責任の重さ、事故への不安ですね。再就職の場合が、就業時間が希望と合わない、休みがなかなか取りにくいというようなことも先生方からお話を聞くところでございます。

そして何よりも、処遇改善、処遇改善と言われるところの大きなところが、賃金が希望と合わないというところでございます。

私が勤めさせていただいているとき——もうかれこれ40年ぐらい前になりますけれども、保育士、幼稚園の先生方の報酬は、そのときから数万円しか上がっていないんです。国も一生懸命取り組んでいただいておりますが、なかなか先生お一人お一人の懐が厚くならない、

そういう実態があります。

ここにもありますが、「休暇が少ない・休暇が取りにくい」。

そして、「保育士の必要性に関する広報」としては、私はここ、非常に大きいなと思ったのは、「業務に対する社会的評価が低い」。

家にもって帰る仕事はたくさんあります。日案、週案、月案、お便りも毎日あります。そして、新聞も出されている保育園、幼稚園もあります。作らなければなりません。月初めに発行する園の新聞などもございます。

その労働に見合う対価が支払われていないというような実情が大きいのではないかと、うふうに思うところでございます。

なおさら、このような状況では、障害をお持ちの子どもさんを園に預ける場合、いいですよと園もなかなか言いつらいところがあると思います。すぐには保育士が見つからない場合がたくさんあると思います。

これは短大、養成学校を卒業した保育士さんが保育所に就職をするという方が約半分ですね。それから、幼稚園や保育所、障害者施設に就職をされるという方もいらっしゃいます。

しかしながら、右を御覧ください。1年未満が10%——1割ですね。3年未満、5年未満、10年未満。お勤めになられる方々の80%が、もう10年未満で辞めていかれるんです。なかなか続かないというところが現状であります。

私の友人も、この年になってパートで勤めているよという声もあります。主任をしている人もいらっしゃいます。

働き方は本当に千差万別、地域によっても報酬が若干違ってくるところではあります。

国ももちろんですけれども、本当に園側も努力されている、しかしなかなか。私もそうですけれども、潜在している保育士がたくさんいらっしゃる、これを発掘しなければならない。潜在している保育士を発掘して、何とか保育園、幼稚園、認定こども園に勤めていただきたいというふうな取組が全国各地でも行われているところでございます。

武雄市においても、平成30年に潜在保育士等のための再就職支援セミナーの開催を吉牟田前センター長の肝煎りでリカレント教育をしていただいております。この内容と実績をお尋ねをいたします。

○議長（山口昌宏君）

牟田こども教育部長

○牟田こども教育部長〔登壇〕

平成30年度実施をいたしました、「潜在保育者のための再就職支援セミナー」でございますけれども、再就職を支援いたしまして、市内の保育施設等への就職につなぎ、円滑な入所につなげるという、そういう効果がございました。

実績といたしましては、セミナーには 15 名受講をしていただき、5 名の方が再就職をしてくださいました。

○議長（山口昌宏君）

3 番猪村議員

○3 番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

講座をたくさん開いていただきながら、そして、15 名受講をされて、5 名が実際にもう現場に出られているという、3 分の 1 は就職をされて現場で働いてくださっている、非常に有効な講座ではなかったかというふうに思っております。

保育士不足解消に向けた今後の取組でございますが、先ほどのリカレント教育、潜在保育士の発掘セミナー、こういったところも踏まえて今後、保育士不足解消に向けた今後の取組、そういったところはどのようにお考えかお尋ねをいたします。

○議長（山口昌宏君）

牟田こども教育部長

○牟田こども教育部長〔登壇〕

潜在保育者のためのセミナーは 30 年度から開始をしておりますけれども、昨年度はセミナーを修了された方、再就職をした方を対象にフォローアップの研修をさせていただきました。5 名の方が受講されております。

そして、今年度ですけれども、非正規の保育者の方を対象にスキルアップセミナーを開催しております。14 名の方が受講をされておりますけれども、保育者としての質の向上を図って、離職防止、待機児童防止につなげるために開催をしているところでございます。

そして、「佐賀県保育士・保育所支援センター」との連携で、来年 2 月 10 日に保育士就職支援セミナー「おしゃべり保育カフェ」が武雄市で開催が予定されておりますので、こういったところとも連携をして、保育士不足解消についての取組をしております。

○議長（山口昌宏君）

3 番猪村議員

○3 番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

出ましたこの「佐賀県保育士・保育所支援センター」、これも私、全然知らなくて、こういうのがありますよと教えていただいて見させていただきました。

全国的にも各県——今、保育士・保育所支援センターを——ホームページを開きますと——保育士不足等々で検索いたしますと、このセンターが出てきます。マッチングをしたり——、保育士さんと保育所のマッチング、それからアドバイス、こういったことを佐賀県では県社協が取り持っていていただいております。

これは、この事業を聞いたときに、ああよかったと思いました。こういうのが県でもあるんだ。ぜひですね、加配の補助金はあっても保育士がいない、保育士を探せない、そういった園の要望、そして、働きたい人が働ける場、そういったところをうまくマッチングする、この県との連携。

そして、私は、子育て総合支援センターが武雄市、そして、この西部地区の保育士・保育所支援センターの核になってほしいというふうに思うところでございます。

こういった事業と——県と連携する。そして、市としても保育士をしっかりと確保して、そして、後でも申し上げますが、新幹線で長崎と28分につながります。

長崎には、後ほども申し上げますが、たくさんの学校があります。大学との連携——高校は77校、大学も10校、専門学校も22校ある中で、この保育士、いろんな人材の確保を武雄市もしなくてはならない時期に来ているというふうに思います。

体制づくりについて市長はどのようにお考えかお尋ねいたします。

○議長（山口昌宏君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まず、保育園とか幼稚園など、保育従事者の皆さんにはこのコロナの中で本当に子育ての最後の砦として、感染リスクと戦いながら日々従事していただいていることに対して、まずもって改めて感謝を申し上げたいと思います。

その上でなんですけれども、今、お示しいただいたこういったマッチング、県のマッチングなどもうまく活用して、先ほど部長も答弁しましたとおり、私たちとしては、保育士、保育園、幼稚園、現場が大変厳しい状況であるというのは私も把握しておりますので、しっかりと連携をして、一人でも多くの保育士の方の確保に努めていきたいと思っております。

新幹線の話をおっしゃいましたけれども、新幹線開業で、昨日も申し上げましたけれども、長崎との直接のつながりができたり、武雄の交通は便利になります。佐賀方面の特急も増えるということで生活の利便性は上がる。ただ、利便性が上がるだけではやはり定住・移住にはつながらないと思っております。

猪村議員が先ほどからおっしゃっていますとおり、子育ての安心、どんな境遇であっても安心して武雄であれば子育てができると、そういう環境も併せて初めて定住や移住にもつながると、やっぱり新幹線の効果、定住・移住というのが最大限になるというふうに思っております。

子育て支援センターは、私も子供が小さいときに、特に妻と子供が利用しましたけれども、本当にありがたいセンターだなというのは、一市民の立場としても思いました。

まさにそういう意味で、西九州のハブ都市と言っておりますけれども、この佐賀西部の子育ての核として、これからも子育て支援センターの機能をさらに充実させていただきたい。

これが新幹線開業の効果と重なると、いい相乗効果が生まれるんじゃないかと思っております。

○議長（山口昌宏君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

本当に市長がおっしゃるとおり、長崎、福岡、それから、利便性がよくなる、便も増える。そういった面で、子供たちがどんどん、どんどん巣立っていく。そして、武雄に住みながら通うことができる。

後の話にもなりますけれども、そういったところで定住を進めていく上でも、土地を分譲したときに、若い子育て中の方々に、どうぞ移り住んでください、来てください、そして地元の方にもどんどん住みよくなりますよという中でも、保育士不足、そして、園が行き詰まるとどうしようもないところでございますので、そういった面でも、ぜひよろしくお願い申し上げます。

それでは、次にまいります。事業者支援について。

緊急つなぎ給付金についてでございますが、昨日、牟田議員からもありました。先ほどの宮本議員からもございましたけれども、私も牟田議員と全く同様の質問でございまして、緊急つなぎ給付金について、初めに、この4月20日から5月29日までだったでしょうか、緊急つなぎ給付金を給付していただいて、そして、法人、中小企業、それから、個人事業主の方々にいち早く支援をしていただき、助かったというような声もたくさんあると他の議員からも一般質問等々で出されておりました。

この緊急つなぎ給付金について、再度ではございますが、お尋ねを申し上げます。

○議長（山口昌宏君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

武雄市の緊急つなぎ給付金の実績ということでの御質問かと思えます。

この緊急つなぎ給付金につきましては、申請受付の期間を4月22日から5月29日まで設けておりました。

給付件数につきましては、855件、金額にいたしまして1億5,309万2,000円の支出となっております。内訳といたしましては、法人の事業者が163件、個人の事業主様から692件の申請をいただいております。

○議長（山口昌宏君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

中小企業からは163件、個人事業主さんからは692件というような報告をいただきました。

なぜこの質問をさせていただくかということ、この緊急つなぎ給付金を発令というか、——いただいて非常にありがたかったというお声でございますが、第3波が押し寄せて、そしてまた、移動制限もかけられている中、以前から、コロナが出てから感染症がたくさん出だしてから人の流れが大変少なくなった。そして、外国からのお客様も来られなくなった。

ましてや武雄は「いで湯と陶芸のまち」、陶芸を営む方、陶芸と一緒にカフェを営む方、そういった方々が周辺部に、町なかにもたくさんいらっしゃいます。

家族経営——牟田議員もおっしゃいました、全く同じでございます。家族経営の方々には雇用調整助成金が受けられないんです。

この家族経営の方々も一緒に生活をしていても、お父さん、お母さん、息子さん、一人一人の生活があるんです。3人家族でも、個人事業主1件当たり15万円、これもありがたいですけれども、この家族の中でも一人一人の生活がある。3人いらっしゃったら3人の生活がある、2人いらっしゃったら2人の生活がある。

そういった中で、もう少しきめ細かく支援をしていただけないか、そういったところの要望、声でございます。私はそのように受け取ってこの質問をさせていただいております。

苦しい、年が越せないかもしれないというようなお声ございました。そういった方々へ、ぜひ支援をしていただきたい、きめ細やかな支援を、ぜひお願いしたいというふうに思って、重複いたしますが、市長、どのようにお考えかお尋ねを申し上げます。

○議長（山口昌宏君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

ちょうど昨日、国の3次補正が閣議決定されましたけれども、それを見ていると、恐らく国は一律の直接給付から、どうもある程度絞って、業態転換をする中小への支援とか、そういうふうにシフトしているんだなというのを、私、昨日ニュースを見て思いました。

ただその分、一方で、基礎自治体にはコロナ交付金第3弾ということで、それを交付することで、地域で実情に合わせて対応をしてくださいと、国はそういう趣旨なんだというふうに理解をしております。

先ほどおっしゃったように、感染が拡大している中で、武雄でも第3波というものが今後、広がっていくかもしれない、そういった状況を見ながら、これも繰り返しですけれども、私たちとしては、とにかくコロナの影響で大変厳しい状況に置かれている方を支援するというのが武雄市の考えでありますので、ここについては状況を見ながら、タイミングを逸することなく、適切な支援をやっていきたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

3 番猪村議員

○3 番（猪村利恵子君）〔登壇〕

市長、ありがとうございます。

ぜひちゅうちょなく発令していただきたいというふうに思うところでございます。

また、これも新幹線と、この後に申し上げるところでございますが、陶芸を営んでいらっしゃる方、カフェを営んでいらっしゃる方々、周辺部にたくさんいらっしゃると思し上げました。それは皆さん御存じのとおりだと思ふんですけれども、そういった雰囲気の良い、そして、文化と芸術、そういったものの灯が消えていくと、これは間違いなく。武雄市の魅力が落ちていきます。

文化は大事です。芸術も大事。そして、そういったところに新幹線で「どんどんおいでください」と言えなくなってしまう。

どうか、ぜひ市長が今おっしゃってくださった事業をいち早く展開していただき、国、県と連携してでも、よろしく、手厚くお願いを申し上げます。

今後の支援についてもお答えをいただきました。ぜひよろしく願いいたします。

それでは、次にかせていただきます。

最後の質問ですけれども、新幹線開業に向けた取組について。

これも牟田議員をはじめ豊村議員、多くの議員から質問をいただいているところであります。

重複いたしますが、2022 年秋に開業。N700 S K、一番新しい新幹線。私も大好きです。もう早く乗りたくてたまらないです。

デザイナーの水戸岡さんが新幹線のデザインをしてくださった。本当に楽しみで、今度、市報にも2面、掲載をされているというところでございます。

先日、11月21日にレールウォークがございまして、参加をさせていただきました。

新幹線フル規格で武雄から長崎まで、2年後の秋に開業。対面乗り換え方式ということであります。

そのほかの区間は決まっておりますが、とにかくこの2年間で武雄から長崎まで開業することは間違いのないわけですから、もうここに一点集中して、私は武雄市民の方々にこの機運を一緒に醸成し、盛り上げて、そして、新幹線が開通するという地元に住んでいること自体、私は非常に心躍る、そして光栄なことじゃないかというふうに思うところでございます。

この一点に集中して、2年後開通する新幹線に全力投球で、ぜひ各課挙げて取り組んでいただきたいというふうに思うところでございます。

高架下を含めた駅周辺整備の進捗状況についてお尋ねをいたします。

以前も、――3年前になりますか、私も駅周辺のことについて質問をさせていただきました。

夜降りてくると、暗い、真っ暗ですというふうに申しあげましたけれども、最近レンタルカー屋さん、不動産屋さんといろいろショップができてきて、そしてこの周辺も大変きれいに、武雄町花いっぱい運動委員の皆様方が取り組んでくださって、故山口等議員もいらっしやったらここで花を植えられているだろうなというふうに想像することになりますが、私が写真を撮りに行かせていただいたときも、住民の方が、マルチをしているから水がなかなか花に行かないんですよといって、自主的にお水をかけに来てくださっているところでお話をさせていただいたところがございます。

私が以前質問をさせていただいたのは、この斜面に泥肌が今見えております。ここがどうかにならないかという質問もさせていただきますが、お願いもありますが、ここが真っ暗で、それは今、お店ができておりますが、この地肌が見えているというところも、住民の方々も、「ああ、どがんかなあぎよかよね」というふうなことも、ほかの議員のお耳にも届いているというふうに思いますが、この高架下を含めた駅周辺整備の進捗状況について、この斜面のところにも併せてお答えいただければというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山口昌宏君）

野口まちづくり部長

○野口まちづくり部長〔登壇〕

駅周辺の整備についてということですが、まず、北口広場になりますけれども、令和4年秋の新幹線西九州ルートの新幹線の暫定開業に向けて、平成30年度から地元永松区に市の補助事業「景観形成支援事業」を活用いただき、花植え活動を実施していただいております。

また、昨年度は市の単独事業にて、北口の花壇の増設を行い、今年度は、のり面の擁壁工事を実施してきております。

先月11月には永松区の皆さんとボランティアの皆さんで、佐賀県の花と緑を育む地域づくり推進事業を活用され、花壇をさらに広げていただき、たくさんのお花でお出迎えを行っており、令和4年秋の新幹線暫定開業ではもちろん、令和6年度に開催される国民スポーツ大会まで実施していただくことになっており、それ以降も永松区の協力をいただきながら、継続した景観形成活動を行っていきたくと考えております。

また、新幹線の駅舎についても現在、工事が進められている状況ですけれども、観光地として便利で魅力ある施設とするため、現在、JR九州と協議を行っておりますが、在来線駅舎も含めて利用客が降りたくなるような施設や駅前広場となるよう、市民の皆さんや関係団体と一緒に考えていくことにしております。

○議長（山口昌宏君）

のり面上部は。

〔3番「のり面」〕

○野口まちづくり部長（続）

のり面上部については、今後、対応をする予定としております。

○議長（山口昌宏君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

のり面は11月・・・、来年・・・。（発言する者あり）ありがとうございます。

それでは、このむき出しになったのり面もきれいになるということでございます。

高架下を含めた駅周辺整備の進捗状況について——周辺は北口のほうになりますが、南口のほうも今からわくわくするような広場になる、利用がしやすい駅の南口になっていくというふうに思うところでございますが、高架下を含めたというところで、高架下の活用なんですけれども、ほかの議員からもいろいろ質問があつているというふうに思いますが、これは私の提案ですけれども、この右上の写真は2年前に一般質問させていただきました埼玉県三郷市のセナリオハウスフィールド、陸上競技場です。これが遊水地になっているということで、一般質問をさせていただいたところでございます。

左側に大きな川がありまして氾濫をするというところで、周りが駐車場になっておりまして、陸上競技場、ここも遊水地で水につかってもいい施設となつておるところでございます。

この奥に2つフィールドが見えるところが3×3（スリー・エックス・スリー）の2面コート、手前がスケートパークのコートでございます。

私がここを見たときに、今度の新幹線の高架下に、ぜひこういう若い人たちが集えるような施設、大胆に造ってはどうかというふうに提案をさせていただきたいというふうに思うところでございます。

コートは平面です。器具が、このバスケットゴールですね、これは移動ができます。スケートパークの台も移動ができる。

災害のとき、そして駐車場活用、そういったものも十分でき得ると思います。囲みも何もありません。

こういった若い人たちが新しい新幹線の開通と同時に、こういう佐賀県も3×3のチーム、前年度は全国優勝しているチームがあります。そういったところとの交流なんかも十分にできるんじゃないかというふうに思うところでございます。

高架下に活用、それはいろいろ考えられるところを皆さん方から今、提案をいただいでいらっしゃると思うんですけれども、3×3、ローラーパークなど、高架下に大胆に持つてくる、そういったことも一つの案ではないかというふうに思うところでございます。

こういったところに、——すみません、失礼いたしました。——3×3やローラーパーク、こういった大胆な施設を造って、若い人たちに集ってもらう。そして、若い人たちが集うことによって高齢者や地域の方々も元気をいただく、そういった相乗効果もあるのではないかというふうに思うところであります。

いろんな取組が考えられる中で、市長、こういったスポーツを体感できる、こういう活用の在り方、これについていかが思われるでしょうか、お尋ねをいたします。

○議長（山口昌宏君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今回、高架下については、人に言わせると日本最大級の高架下が誕生するというふうに言う方もいらっしゃいます。この活用が、大変、私は重要なポイントだと思っています。

そういう意味で、先日、千年夜市というのも開催をして、そしてどういう使い方ができるだろうかという、そういった社会実験を行いました。

私たちの考えは、造ってから使ってくださいと。使ってくれるかもしれない、でも、使ってもらえないかもしれないというところがある中で、むしろそこを使う担い手を発掘して、そういう人たちが実際使いやすいように今後整備をしていくという、そういう考え方で進めています。

そういう意味で、急がば回れ、結果的にいいものを造りたいというところではあるんですけども、先日ちょうど千年夜市でも、スケートボード愛好会の皆さんに入り口で検温をしたりと、ボランティアで様々参加をしていただきました。

そういった形で若い人にも今回、たくさん関わっていただいたと思っていますので、実際そこで使いたい、私たちならこういうふうに使おうと、そういった若い人たちの意見を聞いて今後整備を進めていきたいですし、そういう中でこういった提案も出てくれば、そして実際そこで担い手、そして管理もやると、そういう話があったら十分可能性がある話かなと思っています。

○議長（山口昌宏君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

よろしく願いいたします。

次に、計画策定等についてでございます。

先ほどからもございました九州新幹線武雄温泉駅開業に向けた魅力創造行動計画、これがあります。

ページをめくりますと、最初に効果、それから好機、こういったものが出てまいります。

先ほど申し上げました高架下の空間の整備でございますが、ここに挙げられているのはデジタルサイネージの設置とか、乗換ホームに観光パネル等の設置、駅通路内の誘導案内表示、レンタサイクルの充実などが挙げられております。

これらも大変重要なことでありますが、もうあと2年で開業でございます。急がなければ、市民の皆様方と一緒に機運を上げて、そして市民の皆様方と共に喜べる、共に祝える、そし

て参加をしていただく、そういった事業に持っていく、わくわくするような事業を提案するこの行動計画が市民全体のものになっているかどうか、そういったところが危惧されるところでございます。

そういった、市民全体と、市民と一緒に味わえる計画、そういったものがここに薄いような気がしてならない。

そして——時間も押しておりますので、先ほど申し上げました定住促進の、スクロールして最後にここが出てきます、6番目。

往復切符の、往復割引切符等の検討、通勤、通学向け新幹線乗車割引、そして4のところには新幹線通勤者向けの支援、そこにも「新幹線利用者向け通勤、通学への助成」とあります。

私は、先ほど市長もおっしゃいましたけれども、最後にこれがありますけれども、私はこれは大きな契機になるというふうに思っていないんです。

コロナ禍で子供たちが多くの不安を抱えている、親御さんもしかり、みんながそうです。

その中で、新幹線が長崎まで行く、28分で。そして、博多へも便数が増えます。佐世保にも便数が増えます。

そういった中で、この長崎の大学へ行こうと思った子供たち、10校あります。高校に行こうと思う、77校あります。通えるんです。専門学校も22校、長崎県内にある。

そういったところで子供たちが学ぼう、そして、生き生きと暮らせる、夢や希望を持ってスポーツをしに行く、塾に行く、何かやりたいことが叶う、そういったところに今来ているこのわくわくする武雄市。そういったものでこのところ、非常に私は重きをおいていただきたいというふうに思うところであります。

全体で、市民の皆様全体でこの2年後開通する長崎まで行く西九州ルート九州新幹線、これをみんなで、市民みんなで喜びたい。そういった中で計画を急いでいただきたい。そして充実して、これよりも、これに足して、そして急いで進めていっていただきたいというふうに思います。

この答弁は先ほど市長から頂戴いたしましたので、答弁を求めることは差し控えます。

次に、最後です。

これは11月23日にフィンランドサウナが行われ、私も都合がついた時間、最後のあたりになりましたけれども行かせていただきました。大変すばらしい。写真を友達に送ると、「うわー、すごいね」という、「行ってみたい」、「サウナは借りらるっとね」という声もありました。

最後に市長にお尋ねですけれども、アンダーツーリズムという言葉が雑誌に掲載されておりました。

混雑した地域を避け、知名度はなくても、低くても、オリジナルの地域性や歴史を持つ穴場スポットを旅する、あるいは有名な場所でもオフシーズンを選んで訪れる。

新型コロナの感染拡大は、社会に様々な課題をもたらし、こういった新たな価値観への変容が求められる中、アンダーツーリズム、これは人類が導き出すべき一つの答えです。コロナ禍は、人間が不自然な歩みを続けることへの一つの示唆なのかもしれませんとあります。

このことについて、市長どう思われるか、この答弁をいただいて私の質問を終わらせていただきます。

○議長（山口昌宏君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

全体のツーリズム、旅行形態が極めて大人数で、そして観光名所を回るところから、それぞれ個人個人、FITと言われますとおり、個人個人でむしろそれぞれの土地、土地、その土地にしかないもの、その地域の生活に触れたり、自然に触れたり、そういった旅行スタイルに転換をしてきていると思っています。コロナがそれを加速させたというふうに私は思っています。

先ほど、乳待坊公園の写真ありましたけれども、市内にはほかにも、キャンプ場であれば眉山キャンプ場であったり、本当に魅力的なところがたくさんあります。

新しいものを持ってくるだけではなくて、今あるものをしっかりと生かして、あるものを生かしてないものをつくるという視点で、このアンダーツーリズムというのは大事だと思いますし、私たちはそういう視点でも今後の観光振興を図ってまいりたいと考えております。

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

終わります。

○議長（山口昌宏君）

以上で3番猪村議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、5分程度休憩いたします。

休 憩 11時7分

再 開 11時15分

○議長（山口昌宏君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、7番上田議員の質問を許可します。御登壇を求めます。7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんこんにちは。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、これより7番上田雄一の一般質問を始めさせていただきます。

今後の方向性についてということで、今回も通告をさせていただいておりますので、早速

質問に入りたいと思います。今回は「危機管理について」、「まちづくりについて」ということで、中項目、小項目を出ささせていただいております。

それでは、早速質問に入りますが、あらかじめ申し上げておきますけれども、交通事故というのは誰にでも起こる可能性があるものでありますし、いつ誰に火の粉がかかってくるかも分かりません。こちらが十分に用心をしても、もらう事故等々もありますので、そこはあらかじめ申し上げておきながら、この質問に移りたいと思います。

ここにいる皆様も、御承知のとおり、ほとんどの定例議会だったり、臨時議会だったり、事故の報告、または専決の報告等々があっているかと思えます。

過去にも平成27年12月議会でもこのような形で取り上げたことが私自身、あるわけでありますけれども、皆さんも常に、「今後このようなことがないように再発防止に努めます」という話を耳にされた方もたくさんいらっしゃるんじゃないかなと思いますけれども、改めまして、合併後の事故発生状況の推移をお伺いしたいと思います。

○議長（山口昌宏君）

山崎総務部長

○山崎総務部長〔登壇〕

職員の公用車による事故ということで、度々議会の折に御報告させていただいております。

今、画面にもありますように、「今後このようなことがないように」と、「再発防止に努めます」ということで、その都度、述べさせてもらっている状況ではあります。この場を借りて再度、この辺を注意徹底していきたいというふうに思っております。

御質問の公用車の事故でありますけれども、文書の保存年限の確認上、26年度からしか分かりませんでしたけれども、26年が18件、27年が21件、それから、28年が21件、29年が18件、30年が16件、令和元年が7件、それから、今年度ですけれども、11件ということになっております。

○議長（山口昌宏君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

ありがとうございます。

できれば、評価なんかしていただければ非常にありがたかったかなと思いますけれども、やはり、非常に多い事故件数ですね。

今回、この質問を取り上げたきっかけとなったのが、実は、私も過去に公用車と事故しそうになったことがあるんですよ。

どちらが悪いとか云々はちょっと抜きにしておいて、つい最近も、ちょっと本当に冷やっとしたわけでありますけれども、公用車の運転をされている方が一切それを気づいてられなかったんで、私はどきっとしてぱっと見たら、右折帯を右折だったので、こっちが優先道路

だったんで、私もこう、ただ、対向車もいましたのでね、そこで待っていたら、対向車が通り過ぎたので私が先に行こうかなとしたら、もうそっちがびゅーって出てこられて、わっと思ったときに車の側面部に武雄市って入ったわけですね。

こういう経験の話を、ちょっと私の知り合いのところで話をしたら、「いや、おいもああよ」、「俺もあるよ」っていう話を結構聞いたものですから、やはりちょっといかんと思いつながら今回このような質問をさせていただいたわけです。

今回、基本、私どもが事故等を起こして保険を使うということになると、保険料が、掛け金が上がったりするんじゃないかなと思うわけですがけれども、今回、武雄市の公用車がこれほどたくさんの事故等々、物損だったり人身だったり、いろいろ件数も大小様々あるかと思えますけれども、市の掛け金のほうの推移というのはどうなっていますか。上がったりするのでしょうか。

○議長（山口昌宏君）

山崎総務部長

○山崎総務部長〔登壇〕

公用車の保険、任意保険につきましては、全国市有物件災害共済会に加入しております。

掛け金につきましては、公用車の車種、年式等によって異なりますけれども、1万円から4万5,000円程度、この分については車両保険も込みということになっております。

事故を起こした場合の金額ですけれども、この部分については、事故をした翌年についても掛け金について上がることはございません。

○議長（山口昌宏君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

それだけの事故発生件数の割には掛け金は上がらないということで、保険会社さんも大変だろうなと思いつながらですね、——分かりました。

とにかく、ある人からもよく言われました。最近、たるんどりやせんかというような言い方をされる方もいらっしゃいましたので、ぜひ再発防止は徹底をしていただきたいと思いつます。

今回、武雄市、今回ここに出しているのは、佐賀県警察本部と佐賀県バス・タクシー協会、今もう、車の後ろにこのマークが、後ろのほうにもついているのをよく拝見をするわけですがけれども、武雄市での取組として、武雄市も今回、「横断歩道で止まります。それ、武雄が始めます」というふうな取組をされたかと思いつます。

先ほどの質問の説明ではありませんけれども、今回、こうやって車の側面部には武雄市という表記があるんですけれども、やはりもう看板をしょって、武雄市という看板をしょって走っている公用車を運転される際は、その危機感をもっと上げていただいて、大きな事故に

つながらないように考えてほしいなど。

今回、ちょうどいいタイミングでこの「武雄市、横断歩道で止まります。」これ市民の皆さんから言わせると、横断歩道で止まるのは当たり前やろうともんというような言い方をされる方もいらっしゃる。私も最初見たとき、そうだなと思ったんですけども。

ただ、今回ちょうど「横断歩道で止まります。」のステッカーとかあるので、このように車の後ろにも、とにかく常にどこから見てもこの車は公用車ですよと、私も先ほど話をしましたけれども、ちょうど偶然、交差点で出会い頭に会ったときに、横に武雄市と入っていたというぐらいでしか気づかなかったので、もうどこからどう見ても公用車ですよっていうぐらい看板を背負って事故の発生防止に、ぜひ努めていただきたいと思いますけれども、これについて御答弁をお願いします。

○議長（山口昌宏君）

山崎総務部長

○山崎総務部長〔登壇〕

議員御提案の公用車への武雄市表示につきましては、今後、前向きに検討していきたいというふうに思います。

○議長（山口昌宏君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

前向きに検討いただくのはありがたいですけども、もう今作ってあるプレートを後ろに貼って、もうとにかくどんどん行だけやけんですね、お金もかかりませんので、もう出来上がらう分でしょう。ぜひ実施して、とにかくもう事故が可能な限り少なく済むように、ぜひお願いしたいと思ひまして、次の質問に行きます。

次に、コロナ対策。危機管理のコロナ対策です。

これは前回の質問でもそのまま使っております。

外出自粛が当初ありまして、それが解除になりました。

ただ、今でも本当に医療現場の皆さん、介護現場の皆さんは、本当に身を削る思いで対応いただいておりますので、本当にありがたいなと思ひますけれども、このような形で、第1波、第2波ということで、なかなか売上げ的に戻ってこないという地域の相談をいただいたわけですけど。

これが前回、9月議会のときに、市役所の職員さんの動向はどうなっていますかという質問をさせていただいたかと思ひます。

その当時、9月議会のときには、部単位とか課単位で、万が一感染者が発生したときのリスクを考えて、そういう単位での会食等々はNGですけども、例えば同じ趣味を持つ人たちとか、例えば同期とかいうような、課をまたいで、横のつながりの分は全然オーケーだと

いう話を答弁いただいたかと思えますけれども。

3か月たって、またつい最近の状況も踏まえて、3か月たった今の市の方針、見解をお伺いしたいと思います。

○議長（山口昌宏君）

山崎総務部長

○山崎総務部長〔登壇〕

今、議員御紹介ありましたように、9月議会のときにも同様の答弁をさせていただいておりますけれども、コロナ関係が収束というか、落ち着いてきている状況も見えましたので、11月に部単位での会席等については一旦、解除したところではありましたが、再度、コロナ関係が広がってきたというところで、再度11月19日付で前回、御紹介したとおりのコロナ感染拡大防止という観点で、市役所業務の継続性の観点から、部単位、組織単位での全員参加型の会食については改めて制限をかけたというところであります。

ただし、地元経済の活性化を図る上でも、感染リスクに配慮した小規模、少人数による個人的な会食について、そこについては制限をかけていないという状況になっております。

○議長（山口昌宏君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

人数とかの制限も今のところないわけですか。

○議長（山口昌宏君）

山崎総務部長

○山崎総務部長〔登壇〕

あくまでも業務継続という観点から、人数という考え方はいたしておりません。

○議長（山口昌宏君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

私の聞き間違いだったのかなと思います。「4人までしか駄目よ」とかですね、そういう話をちょっと耳にしたような気がありましたので、今回、質問をしたわけでございます。

というのも、飲食店の皆さんもそうですけれども、これから年末商戦、年始商戦、本当に書き入れどきにコロナでいろんな制限がかかっているとすると、もう本当にまちは疲弊がもっと激しくなってくると思います。もうとにかく年末商戦に売上げを取らんと、もたんというような人もたくさんいらっしゃると思うんです。

私も実は商売人で、年末年始はもう本当に寝らんごと商売ばせんばらんやった時代もありましたので、その気持ちが十分、分かるもんですから。

特に、飲食店の皆さん等々は、市役所の職員の動向というのを物すごく気にされているん

ですよ。市はどがんなとととって。それにならって民間企業もやられたりするっていう、対応されたりするという話も聞きますので、極力対策を打って感染拡大防止——もちろん感染拡大防止は徹底の上ですけれども、やっていただきたいというところであります。

今回、これも前回の質問でさせていただきましたけれども、私どももここに、このアクリル板に囲われているところはマスクをしておりませんが、あとは皆さんマスクをしながら、フェイスシールドの方も、今日はしていらっしゃいませんけれども、フェイスシールドをされている方もいらっしゃいました。

施設、事業所等は手指消毒だったり、検温だったりということで取り組まれております。

競輪場の事例を紹介しながら、このようなサーマルカメラの導入をということで、9月議会にさせていただいたんですけれども、その中で、新型コロナ対策地方創生臨時交付金で、2,000万円の「新生活様式導入支援補助金」ということで実施をいただいて、それが全然足りないということで3,000万円の追加補正を、合計額5,000万円ということでありましたけれども、これもいろんな使い方、本当に助かったという声をたくさん聞いております。

これもとある市内の飲食店ですけれども、アクリル板を正面の皆さんとの非接触、飛沫防止、感染対策として、このようなアクリル板を設置されて、この奥には有名電機メーカーの空気清浄機で、この周りにち煙ば少し出してみらんですかって、物すごくセンサーが反応して、対応がちゃんと始まりますからということで伺いました。これもしつかりした新生活様式の導入支援補助金を使っただけの対策だというふうな話を伺いました。

ただし、これに物すごく——まず、この新生活様式の事業の実績をまずお伺いしたいと思えます。

○議長（山口昌宏君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

武雄市新生活様式導入支援補助金についてでございます。

先ほど議員のほうからも御説明をいただきましたけれども、当初2,000万円から3,000万円の追加をさせていただきまして、合計5,000万円の予算で実施をさせていただいております。

11月2日から30日までということで、当初、申請期間を設けておりましたけれども、予算の上限に達しましたので、早めの11月20日までということで受付を終わらせております。

申請件数につきましては、230件でございます。主に飲食を伴う事業者様から約半数近くの申請を受けているところでございます。

主なものにつきましては、先ほども御紹介いただきました換気を促すような機材であるとか、飛沫防止のフィルム立て等の購入等が行われております。

状況につきましては、開始から1週間ちょっとぐらいにつきましては、非常に多くの方が

らの申請、問合せ等をいただきましたけれども、後半につきましては、ある程度、落ち着いた感じで、1日数件という形で申請、問合せ等があったところでございます。

その結果、11月20日までで予算の上限に達したということでございます。

○議長（山口昌宏君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

11月2日から30日まで当初は予定していたけれども、20日で予算上限額に達したので、そこで打ち切ったということでございますね。

本当にそれにしっかり対応をされた方は、本当にありがたかったとおっしゃっていただいておりますけれども、後ろを繰り上げたことによるものなのか、市内の業者さんには、導入は、――まず、この継続の支援を求める声というのが非常にたくさん寄せていただいております。

これについて、いろんな財源等々の兼ね合いもあるかと思っておりますけれども、改めてこの継続を求めることをお伺いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（山口昌宏君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

申請の締切り終了後、私どものところにも数件、お問合せ等があったことは事実でございます。強くは求められていないという状況でございました。

これにつきましては、先日も答弁をさせていただきましたけれども、状況を見ながら、現時点では、今のところ継続の予定はございませんが、この状況を見ながら、必要に応じて、ここはスピード感を持って対応をしていきたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

強く言える人はおんさなかと思うんです。支援をお願いしますと言いようにですね、なかなかあれでしょう。

今回、私のほうにもですね、相談というか、あったのが、この支援を当てにして導入をしたと、数十万をかけてですね。ただ、これがその支援を当てにしていたというとおかしいですけれども、それを見込んでやったにもかかわらず、締め切りに間に合いきらんでということいろいろ相談もあったわけです。

繰り上げたことで間に合わなかった部分もいらっしゃるかと思っておりますけれども、せめて導入をされた時期は実績としてもう分かるわけでしょうから、その期間内に導入をされているところはもう、ちょっと対応をしていただくような、ぜひそういう対応も取っていただきたい

いなと思います。

これについては答弁——先ほどスピード感を持って対応をいただくっちゅうことでしたので、ぜひそこも考えていただきたいなと思います。

次に、コロナ禍による学校教育現場の対応ということで質問をさせていただきたいと思います。

第1波では、皆さん御案内のとおり月をまたぎますけれども、25日程度の休校が武雄市でも実施をされたところでありまして、武雄はICTを活用してトップランナーとっていいものかどうか、私はトップランナーに近いところにいるだろうなと思いながら、対応いただいたわけでございます。

とにかく、そのような武雄市の教育環境の中で、学校の先生たちは、学校が休校だから何もしらんというわけでは当然なくて、各家庭の環境がそれぞれ児童も違う中で、先生方もいろんなアイデアを出しながら、自宅にいる生徒、子供たちのことを考えながらこういうSNS等を使って発信をして、元気出してよとって、学校で先生たち待ってるよというような取組、家の中でこういうことをしながらでも体を動かしてみたらどうだみたいなところで、本当にありがたいなと思いながら見ていたわけでございますけれども。

子供たちが今回、休校で学校が休みになったりした。今はもちろん通常どおりで学校、子供たちは元気に登校しているかと思っておりますけれども、学校の先生方もコロナによっていろんな環境が変わったんじゃないかなと思うわけです。

特に今回は、ちょっと取り上げてみたいなと思いましたが、コロナの始まる前と後の先生方の出張の状況ですね。研修だったり、出張もいろいろあるかと思っておりますけれども、この状況というのはどのような変化があっているのか答弁願いたいと思います。

○議長（山口昌宏君）

松尾教育長

○松尾教育長〔登壇〕

（モニター使用）研修とか会議ですね、そういった教職員の出張については、主に県の教育委員会が企画、計画をしているところでございますけれども、年度当初のこういった出張の予定は291件ございました。

それがこういったコロナ禍によりまして135件が中止ということになって、43件が規模縮小というのは、出席者を限定したり時間を短縮したり、あるいは会場を分散して出席者を少なくするというような規模を検討してするというようなことで、会議は大幅に減ったところでございます。

○議長（山口昌宏君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

想像していたとおりの数字が出てきたわけですが、先生方の出張、研修が多いというのは、もう前々から結構、学校現場の中では問題視もしていた部分もあったわけですね。

今回コロナによって、その辺で数が減少したということで、それが生む効果とすれば、ここに私が書いているように、子供たちと接する時間の増大だと思うわけです。でも、我々保護者側からすれば、これが先生方に本来、一番望んでいる仕事だと思うわけです。

もういろいろスキルのアップは先生方にとっても必要ではないかなと思いますけれども、今回コロナでそういう研修、出張が減った中で、学校現場の先生方の反応というのはどのような形で現れているのかお伺いしたいと思います。

○議長（山口昌宏君）

松尾教育長

○松尾教育長〔登壇〕

議員御指摘のように、出張の削減によっていろんな学校の運営、学校教育活動の在り方が今年度は変わったところがございます、私達も学校訪問をいたして、校長先生をはじめ教職員の先生方と話をするわけですが、やっぱり第一は、子供と向き合う時間がしっかり確保できたというようなことで、多くの先生からそういった意見を聞いているところでございます。

○議長（山口昌宏君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

それでは今回、コロナでこのように出張等々がなくなって、減少して、現場で不具合等々、何かありましたか。あったか、なかったか。

この研修がなくなったので、「私はせっかくこのスキルを頑張って学ぼうとしていたのに」とかというような現場の声だったりとかもあるかも分かりませんし、研修自体をストップしたおかげで学校現場がこうなってしまったとかというような不具合があるかどうか。

もしないのであれば、私は、このコロナのせいだというとおかしいですが、コロナに乗じて、この流れはそのまま継続して、県教委にも、武雄市教育委員会としても声を上げていくべきことではないかなと思うわけですが、これについて答弁をお願いします。

○議長（山口昌宏君）

松尾教育長

○松尾教育長〔登壇〕

出張の削減が、不具合、影響はあったかということでございますが、いろいろ意見を聞いておりますが、特に大きな影響はなかったということは聞いております。

ただ、今年から、先ほど申しましたように、小学校で新しい学習指導要領が全面実施をし

ております。来年からは中学校が実施するというので、ちょうど学習指導要領の変わり目
でありますので、こういったときにはやっぱり研修の必要がありますけれども、そういった
研修が少し減ったということは私どもは危惧はしておりますが、ただ、それぞれの学校単位
で、あるいは学年単位で自主的に研修をしてもらっておりますので、その辺はカバーができて
いるんじゃないかならうかと思っているところです。

○議長（山口昌宏君）

7 番上田議員

○7 番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひ特段問題がないのであれば、武雄市教育委員会として、このコロナに乗じて、もうこ
の研修、出張は極力減らしていきましよう。

ちょっと言うと、特段問題がなかったのであれば、私が考えるのは、そもそも要らんやっ
たとじゃなかとというぐらいに感じる部分はああわけですよ。ですので、ぜひそこら辺で
継続をしていただきたいなと思っております。

次に、今回、卒業式とか入学式の式典ですね、我々議会のほうも出席を自粛してくれとい
うことで連絡が入りまして、もちろん皆さん行っている人はいないと思えますけれども、実
は私は今回、中3の子がいて、卒業生保護者の当事者でもあったもんですから今回、卒業式
に出席ができたわけでございます。

常々、もう卒業式の式典がとにかく、ばさらか時間が長いというのが保護者の人たちから
も物すごく声をいただいておったわけです。

今回コロナで、式次第——ちょっと拡大するとぼやけて見えないと思えますけれども、式
次第が開式から閉式までもう5つぐらいしかなくなっているというような格好で、生徒たち
も卒業生本人だけ、在校生の代表も1人いらっしやいましたかね、このような形で、入場さ
れるときには検温と手指消毒を学校の先生方が体育館の入場口で待たれておりまして、対策
されていまして。

このように、来賓の祝辞とかそういうのもなくして、保護者代表の挨拶とか歌関係もなく
して、時間短縮で、もうとにかく短時間でしようというような取組がなされておりました。

入場制限も卒業生本人の子供たちとその保護者だけで、来賓は一切入場しない。教育委員
さんはおんさったですね。大人の方は学校の先生方と教育委員さんがおんさったですけれど
も、そのように入場制限をされておりました。

その後、体育館で式典が終了後、もうそのままそこで解散みたいな対応をされておりました。

このやり方で私に寄せられた保護者の声は、こいでよかやんって、物すごくよかったとい
う声をたくさんいただいたわけです。卒業生保護者の方しか現場にはいませんからあれでし
たけれども、このやり方をやって不具合はどのようなことが何かあったのかお伺いしたいと

思います。

○議長（山口昌宏君）

松尾教育長

○松尾教育長〔登壇〕

簡略化された卒業式についての不具合ですけれども、特に聞いておりませんでしたけれども、在校生が同じ体育館にいないとか、来賓の方がいないと、そういった中で心に残る卒業式になるかというようなことは本当に心配をいたしました。

ただし、特に大きな、それぞれの学校で先生方が工夫していただいて、心の籠もった式を実施いただいておりますので、特に大きな不具合というのは聞いておりません。

○議長（山口昌宏君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

どちらかという、私も卒業式だったり、入学式だったりというのは行きたいほうなんです。自分も行きたいなど。行ってお祝いをしたいなどというような形の気持ちはあるんですけれども、今回、来賓席は誰もおらず、全然このやり方でもいいんじゃないかなど。当然PTAの会長さんの挨拶とかありませんでしたけれどもね。

学事報告の中に知事の挨拶、市長の挨拶、議長の挨拶、PTA会長さんの挨拶、卒業生保護者代表の挨拶、そのぐらいが学事報告の中に挟まれとったわけですよ。このやり方で全然いいんじゃないかなというふうに、私は物すごく感じたわけです。短縮化をすれば。

ですので、ぜひこれも今年の年度末もどういう状況になるかも分かりませんので、もうそのまま、コロナ収束してもこのままでいいんじゃないかなというふうな気でおります。

ただ、一つだけ、私が保護者としてお願いがあるのが、この終了後、即下校、ここがですね、やっぱり私は卒業生の保護者としても思ったんですけれども、最後のホームルーム、クラスに戻っての最後のホームルームはあってもいいんじゃないかなど。

初めて卒業生を出す先生もいらっしやると思いますし、もちろん子供たちは初めて卒業するわけですから、そこに先生たちが最後に、クラスの担任の先生が子供たちに話す言葉というのは大きいものがあるんじゃないかなどと思うわけですので、どうせ3密回避といいながらも、終わった後の体育館の外はもうすごいことになっとったですよ。とんでもない密状態やったです。みんなもう一緒に写真撮ろう、写真撮ろうって。分かりますよね。当たり前だろうなと思いつつても、ぜひここは、これだけ対応していただきたいと思うわけです。

武雄市はもう子供たちの思い出になるように、修学旅行も何とかして実施してやろうとか、運動会を何とか実施しようというような流れの中で、これも一緒かなどと思いますので、ぜひお願いしたいと思ひまして、次の質問に移りたいと思います。

次に、まちづくりについてでございます。

これも千年夜市の画像になります。武雄市の旧庁舎跡地の駐車場のところで、今駐車場になっているところで、このような社会実験、実証実験が執り行われたところであります。

中央公園ではこのようにテントを張ってキャンプを、——これも実証実験の一つとしてキャンプを楽しまれている方もいらっしゃいました。

特に今回、私がよかったのは、先ほどほかの議員の質問の中にもありましたけれども、市長の答弁だったかな、このようにして若い人が、手伝いなのかスタッフなのか、実証実験のスタッフとしてこのような形で頑張っていたのは非常にいいなと思いながら、駅の高架下の、——これは高架下ではありませんけれども、軒下のところでいろいろと出店を出したりやられておりました。

一方で、保養村のほうにも行きまして、このテントをずっと撮らせてもらったり、意見交換させていただいてきました。ここに見えられている方が、福岡の方とか鹿島の方、佐賀の方。こっちの保養村のほうは武雄の方はいらっしゃらなかったんですけども、1つだけテントに、もうテントは出来上がって誰もいらっしゃらなかったので、1つだけのテントでお話も何も、顔も合わせられなかったんですけど、このようにして、やられている方からすると雰囲気が物すごく好評でした。

ここはキャンプ場として物すごくいいですよと、ロケーションがとにかくいいということで。でも反対側を見ると、宇宙科学館がどんとあるんですよ。こっち側を向いて皆さんテントを、山のほうを向けてテントを立てられておりましたけれども、こんな感じのロケーションですね。

もう家ですもんね、テントの中は。僕も初めて見させていただいたんですけども、このように、このテントは何々ですよという、家の表札みたいな感じも用意されている方もいらっしゃいました。これが夜、飲むための、晩御飯だという方もいらっしゃったんです。これにチーズだけとかという方でいらっしゃいましたけれども。

千年夜市がこのように実施をされて、概要と実績がまず、実証実験とうたってありましたので、まず、概要と実績をお伺いしたいと思います。

○議長（山口昌宏君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

武雄温泉千年夜市でございますが、新幹線開業に向け、駅周辺に生まれる広場や鉄道高架下等の整備に向けて、既存の公共空間を使って、今後必要となる機能や仕組みを調査し、また、町なかのにぎわいを創出する目的での実証実験ということでございます。

今回、企画運営から設営等に至るまで、先ほどありましたように委託業者のほか、ナイトタイムエコノミー実行委員会の皆様やスケボー愛好会、また、当日の出店者の皆様方が直接

担い手になりまして、武雄市役所跡地、鉄道高架下を使った飲食や雑貨の販売の夜市を行いました。

また、来場者の声を聞いて、武雄の未来をイラストに描くコーナーなど、先ほども御紹介いただきました公園での宿泊体験、――これは保養村も含めてですが、行ったところでございます。

そのほか、これに付随いたしまして、夜のまちへ誘導するG o T o スナックという事業を併せてしていただいたところでございます。

実証の結果、2日間で来場者につきましては約4,500の方が御来場いただきまして、まちのにぎわいにつながったと思っております。

この実証実験の結果につきましては、今後振り返り等を行いまして、課題、また、新しい取組等を今後、考えていく必要があるかと思っております。

○議長（山口昌宏君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

来場者の実績等々お話をいただきましたけれども、今回この千年夜市はあくまでも実証実験としてやっているということでもありますので、あまり来場者の実績が、どうなのかな。来場者数はあまり関係なかわけですよね。どちらかといえばですね、あくまでも実証実験やけんがですね。

ですので、今後、この千年夜市の今回の取組を、今後のまちづくり、高架下の利用、駅周辺の活用の利用、この辺を今後どのようにまとめていかれるのか、そこら辺をちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（山口昌宏君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今回の社会実験については、私たちとしては、使ってから整備をするという考え方でやっております。つくって、そしてそこを使ってくださいだけではなくて、実際そこでこういうことを自分たちでやりたいというプレイヤーの発掘、そしてその育成、さらには市民参加、ここを非常に今回、大事にしております。そういう意味での社会実験であります。

今回、先ほど上田議員おっしゃったように、若い人がとにかく多かったと。3密を回避してやるというところで、おっしゃるとおり、実績としての人数というよりは、来られた方の属性として若い人が非常に多かったというのが、私も非常にこれはよかったというふうに思っています。

そういった方が来るだけではなくて、実際に主催者として参加をしたと。言わば、そこで自分たちはこういうことを今後やりたいと、そういう人が今回増えてきたというのは今後

つながるといふふうに思っています。

今後についてですけれども、もう一度、今年度中に今回やった課題等も踏まえながら実施をしたいと考えておりますけれども、ぜひそこには、これまで以上に、主催となる方の、人をさらに増やしていきたいというのが一つ。

そして、これは私の考えですけれども、例えばエリアを駅南口まで広げるとか、そういった新しいチャレンジというところにもつなげていきたいというふうに思っています。

いずれにしても、一過性のイベントで終わるわけではなくて、実際にそこで新幹線開業後も自分たちはここでこういうことをやると、継続的に常駐するプレイヤーというのが出てくるように、持続可能な仕組みにつなげていきたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

ありがとうございます。

先ほどの答弁をいただくと、本当に実証実験だなという形で思いました。

先ほど、市長も今年度中ということ、改めてという話ではありましたけれども、その詳細等々、予定というか、表に出せるものがあるものなのかどうか。

○議長（山口昌宏君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

先ほど市長が答弁いたしましたとおり、今年度ということ、今のところ来年の3月をめどに再度、実証実験等を行いたいと思っております。

詳細等につきましてはこれからでございます。

○議長（山口昌宏君）

間もなく正午となりますが、一般質問をこのまま続けます。

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

来年3月、また実証実験の第2弾ということで、いろいろとやじも飛んでいるところが聞こえてはまいりましたけれども、ぜひ市民参加型の、先ほど市長もおっしゃいましたけれども、課題を解決しながらということで、ぜひ市民総参加型の実証実験というふうに持っていていただきたいと思ひまして、次の質問に移ります。

新幹線についてでございますけれども、自民党県連の代表役員会のほうでアセスを受け入れるようにということで知事に要望があり、これが要請書でありますけれども、県議会のほうでは決議のほうも行われておりますけれども、県議会の一般質問等々を拝見する上では、全然のりくらりで、私はそういうふうに受けましたけれども、答弁としては、幅広い協議

を行っていますとか、実際にそういう協議をやっていますという話が答弁としては出ておりましたけれども、見ている私が感じるのは、もう全然前に進みよらんというような感覚で見よったわけでございます。

そういう中で、11月23日の佐賀新聞の記事なんですけれども、山口県政評価81%と。何でなのかなと。評価されている方もいらっしゃれば、していない方もいらっしゃって、いろいろあると思いますけれども、81%っちゅう数字にはちょっと私もびっくりしたところであります。

もっとびっくりしたのが、今回これですよ。リレー方式25%、フル規格14%と。何でなんだと。記事を読んでいると、武雄市もリレーが最多であったみたいなことの記事も書いてありました。

これだけ市長も、常々フル規格が望ましいとずっとおっしゃっていただいているかと思えます。私もずっと申し上げてきておりますけれども、今回、何でかな、こういう記事になるかなと思いついていたら、ここに小さく今回のモニター数というか、モニター数っていうんですか、サンプル数というんですか、これが626人の回答を見ていると。

この中には、佐賀県内の18歳以上の有権者数を市町別に比例配分し、男女年代もということを書いてありましたので、ざくっと計算すると、武雄市の方は30人から40人いかないぐらいの人数がこれに回答いただいているのかなと思うわけです。30人から40人いかない人数となると、ここにいる人数でも40人は超えているんじゃないか、ここにいる人数ぐらいなのかな。

それが武雄市ではもうそういう感じだということで、このサンプル数が適当なのか不適当なのかとかというような議論をするつもりはもちろんありませんけれども、私としてはもう本当にショックだったのが、武雄市としてがこの数字になっているような記事もあって、とにかくまた一番、ここに分からないがまた増えているというような話をまた聞いて、もうこれはやっぱりどうにかせんといかんなどと思いついていたわけです。

私にここで寄せられた意見は、「上田さん、こい、おい加たつとらんけん、このアンケートに」という方が何人でおんさつたですもんね。「おい何もこういうアンケート答えとらんけんが」って。だけん、おいはフルですけどっていうような形で、そういうふうに言っていた方も何人かいらっしゃったわけなんですけれども。

とにかくやはりこの記事を見て反省すべきところは、やはりまだまだ情報発信が全然足りんところと、今回このアンケート的なことの結果が新聞記事になっておりますけれども、30人から40弱の武雄市の皆さんのアンケート結果が、もうあたかも武雄市の代表意見というふうに、こういうふうに活字が出ると、もう皆さん本当にそれが適当なんだと思われる方がたくさんいらっしゃるんじゃないかなと思うわけです。

もちろんこれが、武雄市が100対0とかっていうような形になるなんて到底思っておりま

せんよ、いろんな意見があつていいわけですから。ただ、やはり分からないが増えていて
いうところで、情報発信の必要性を改めて感じるところであります。

今回、私がとにかく思ったのが、武雄市としての市民の皆さんの感情の把握を、ぜひする
べきではないかなと思うわけです。

もういろんな新聞社のアンケートがありましたけれども、武雄独自調査ではこうですよっ
て、そういう持ち合わせの材料が何もないんじゃないかなと思うわけですがけれども、これに
ついて答弁をお願いしたいと思います。

○議長（山口昌宏君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

私も市民の皆さんと新幹線について話す機会は結構あるんですけども、私の感触でも、
この新聞で言うと武雄市はリレーが 32.4、フルが 10.8 となっていますけれども、私の感覚、
感触としては、もう少し「フルがよかもんね」という方の市民の声のほうが多いのかなと
いうのが私の――数字よりも多いのかなというのが印象です。

いつも申しておりますけれども、まず、リレー方式で暫定開業をスタートする、これは間
違ひなく、プラスかどうかというと、プラスです。ただ、先を考えますと、大きな西九州へ
の流れをつくと。

あとは新幹線が開業、つながることで、そこでの収入が例えば並行在来線の維持にもつな
がってきたりするんじゃないかとそういうところもありますので、その辺も含めまして引き
続き、フル規格が将来望ましいというふうに考えております。

ここについては、今、市でも様々な 2 年後に向けての取組、出前講座もかなり数も増えて
きておりますし、今後もさらに増やしていこうと思っておりますので、そういった部分において、
市民の皆さんの感情の把握については私たちもしっかりと努めていきたいと。アンケートを
一斉にやるとかは考えていませんけれども、そういった、まさにフェイストゥフェイスの場
での把握に努めていきたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

7 番上田議員

○7 番（上田雄一君）〔登壇〕

よろしくをお願いします。

というのも、もう私もこндаけ、議会のこの場でフル規格の質問等々をやっているからか
も分かりませんが、私の周りも 8 割、9 割ぐらいの方がフルですもんね。

「おまえがしっかり頑張らんばぞ」というふうな話もいただいたりするわけですがけれども、
ぜひそのようにお願いをしたいと思います。

続いて、スポーツ施設のことについてちょっと触れたいと思います。

新体育館の候補地が、ここの白岩球場のところに造る、新球場が東川登の残土処分場のところに。

2023年佐賀体育会、国スポこれが2024年になりましたかね。これもちょっと使い回しておりますので、プレ大会が2022年なのか2023年にプレ大会も延びるのかどうかも、ちょっとそこは私も把握をしておりませんでしたけれども、この球場、体育館建設に伴って、やはり私も想定していたところもあります。

ほかの競技団体の皆さんだったり、競技者の皆さんだったりいろんな声をいただくわけです。やっぱり、ちょっと置き去られた感みたいなどころなのかどうなのか、それはもちろん分かります。重々分かりますので、そのたびにちゃんと頑張っていきますよという話はさせていただいておりますけれども。

今回、相撲場のことについての質問をさせていただきたいと思っておりますけれども、白岩相撲場があります。もう一方で、北方運動公園相撲場がこちらのほうにもあるわけでありましてけれども、武雄市公共施設等個別施設計画、通称アセット計画と私どもも言っておりますけれども、スポーツ施設編で、相撲場についてはさきの質問でも出ておりましたけれども、北方運動公園との統合により廃止だったり、運動広場等の駐車場として活用とか、練習での活用は非常に多いがやぐらなどの経年劣化が激しいため廃止と。白岩相撲場と統合し、北方テニスコートの一部へ移転とかというような内容の計画はあります。

私は何度もこの議会の答弁等々でも聞いてきたような、気でおりますけれども、計画には載っているよと。

私も相撲連盟の一員ですので、相撲連盟の皆さんとも連絡はしょっちゅう取り合うわけですよ。そういう中で計画に載るととか、別のある新聞で見たとか、ある人から聞いたとかというようにして、私の感覚からいけば、競技団体の皆さんとの協議をした上で整備を進めていくというように話を伺っているつもりでおりますけれども、やはり活字のまた恐ろしさですよ。

こういうふうに乗っていると、そう書いてあったとかいうようにして、一回火が消えたかなと、何となく落ち着いたかなと思ったらまたポーって燃えてくるわけですよ。

とにかく、改めてちょっとはっきりと申し上げていただきたいのは、今後の進め方、アセットの進め方をどのように持っていくつもりなのか、ぜひ御答弁願いたいと思います。

○議長（山口昌宏君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

白岩相撲場の計画内容につきましては、将来の方向性として考えられる一つの案として盛り込んだものでございますので、白岩相撲場を直ちに廃止することは考えておりません。

武雄市公共施設等個別施設計画のスポーツ施設編においても、スポーツ施設全体を評価し

た上で各施設の方向性を示しており、統廃合の内容、その後の利活用につきましては、改めて関係団体の御意見をしっかりとお聞きする必要があると存じます。

さらには、武雄市スポーツ検討市民会議の中でも、廃止施設については利用者への代替案をしっかりと説明してほしいなどの御意見をいただいております。

安易に時間をかけることは考えておりませんが、今後の需要の変化や財政見込み等を踏まえ協議を進めてまいります。

○議長（山口昌宏君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

何度もその答弁、私も耳にしているつもりだったんですけども、改めてそういう声がありますので、混ぜられんように——ちょっと表現おかしかですね。そのようにならないように、ちょっと関係団体と、ぜひ連携をやっていただきながら進めていただきたいなと思います。

次に、サッカー・ラグビー場関係の皆さんからですけども、武雄市内にはサッカー・ラグビー場、専用コートというところがおこがましいかも分かりませんが、専用で使えるような競技場というのは特にないわけでございます。

サッカーをやられる方、ラグビーをやられる方は多目的グラウンドを活用しながら実施をされているわけでございます。

市長、これは市長の公約のチラシ、久しぶりに見られたわけでもないわけですね。「体育施設の整備、誘致など、スポーツのまちづくりに挑みます。」ということをお願いしておりますけれども。

これが私の平成28年9月議会での一般質問です。市有地の民活の事例として、市川市のアーセナルのクラブチームの事例を紹介したところであります。フットボールフィールドということで、クラブハウスの市有地に民活で建てられながら、こういうふうに人工芝の広い競技場を保有されております。

見ていただくと分かると思いますけれども、この線が、普通だったらこれは、しっかりした基礎を打って、その上に人工芝を張っていく工法だと普通は思うわけです。だから、ラインは普通真っすぐしとうとですよ。ですけども、見ていただくと分かるんですけども、ちょっとやっぱりごとごととって、ちょこっとしとうですもんね。ほとんど、でも真っすぐしとうとですけども。

先日も、私、ジェフ市原の練習場の部分を見学に行かせていただいております。

そこでは、同じように真っすぐ地べたに基礎せんで、このように白線が少しカーブしたりとかというような人工芝のグラウンドもありました。片方では、もうしっかり基礎を打って、もう立った瞬間でも腰に負担がきそうだなみたいな感じの人工芝のグラウンドも何面もあり

ましたので、そこをずっと見させていただきました。

このようにして、人工芝もやり方いろいろあるかと思えますので、今、私も武雄市サッカー協会の人間でもありますので、ぜひそういう声が上がっているわけです。武雄市にも人工芝のグラウンドを設置してほしいと。

アーセナル市川のグラウンドが、これは上空図ですけれども、またこっち側にも広げようとされておりまして。この部分かな。もう広がったと、もう当時からすると何年かたっていますので広がっていると思えますけれども。

これが市有地の無償貸与による民活ということで当時質問をさせていただいたわけですが、改めて武雄市のほうでも今回、ユースのクラブチームがまた新たに立ち上がろうとしております。そのような関係で、ぜひ市内のほうに人工芝のサッカー場を設置を望む声が日に日に高まっておるわけですが、これについての市の見解をお願いしたいと思います。

○議長（山口昌宏君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

現在、新球場及び新体育館の整備事業を進めている中で、現時点ではサッカー場、ラグビー場の整備について具体的な計画はございません。

しかしながら、武雄市出身者のＪリーグでの活躍や市内のクラブチーム活動も活発に行っており、サッカー場整備についての機運が高まっていることは認識しております。

今後も需要と財政状況を見極め、関係団体、それから議員提案であります民間活用も含め、共有しながら最適な方法を探ってまいりたいと思えます。

○議長（山口昌宏君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひお願いしたいと思います。

市内のどこかの市有地をトライアル的に、人工芝が果たしてどれぐらいもつものなのかというような、トライアル的なものでの導入も、ぜひ考えていただきたいなと思えます。ぜひよろしくお願いします。

次の質問に行きます。

先ほど、ほかのスポーツをされている方によく言われるのが、他市にはある施設がなぜ武雄市にはないのかというような声が、やっぱりたくさんいただくわけです。先ほどのサッカー場であったり、タータンが設置されている陸上競技場であったりとか、いろんな話を聞くわけです。

それももう、もちろんいろんな話があつて、あれもこれも何でもかんでもというわけには

いかないとは思いますが、一つ一つ、皆さんの希望に添うような形で応えていただきたいなと思うところがあります。

それと同時に、他市が実施している事業がなぜ武雄市ではできないのかというのも、またいただくわけです。

これは中身は何ですかと話をしたところ、サガン鳥栖へのマッチスポンサーを、武雄市もぜひ検討してみてもどうかという話です。

今、県内で佐賀市、唐津市、嬉野市、小城もやっていますかね、いやその3つかな、マッチスポンサーをやられていますけど、武雄市でも、ぜひしてはどうかとお話がありますけれども、これについて市の見解をお伺いしたいと思います。

○議長（山口昌宏君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

議員御提案のマッチスポンサーにつきましては、県内で取り組まれている自治体があるものの、実施規模にもよりますが数百万円の予算が必要となるため、当市での実施は厳しい金額と認識しております。

ただ、武雄市からプロサッカー選手が誕生したことは大変喜ばしいことでありますので、今後どのような支援、協力が可能か、情報を集約して取り組んでまいりたいと存じます。

○議長（山口昌宏君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

金額の大小はありますけれども、他市の事例もいろいろ私も確認はさせていただきましたけれども、なかなか結構な金額になるわけですね。それを踏まえての話ではありました。

先ほどの部長の答弁の中にも出てきておりましたけれども、今回、相良選手が、高校3年生の武雄出身の選手です。初先発、初ゴールということで、サガン鳥栖で活躍をされています。

過去にも、森選手だったり、サガン鳥栖で武雄出身の選手、サッカー選手もたくさんいらっしゃいますけれども、これからの若い逸材でございますので、ぜひもう武雄こぞって応援をしていきたいなと思うわけです。

特に、過去にはプロ野球選手でも、——もちろん古川侑利選手もまだ現役で頑張っていたいております。

ただ、やはり巨人となるとなかなか現場に行って応援してやろうとなっても、東京まで行かんといかんというふうになると、交流戦の福岡ドームぐらいやったらまだ何とか、——ヤフオクか。——まだあると思いますけれども、今回、相良選手がこうやって活躍をしていただくことに、武雄市、せつかく武雄市の子が佐賀の郷土のチームで活躍の場を持たれたとい

うことで、ぜひ武雄市として応援をしていきたいと思うわけですが、これについて最後の質問とさせていただきます。

○議長（山口昌宏君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

ぜひ相良君を、私も応援をしていきたいと思っています。

やっぱり市民みんなの盛り上がりは何より大事だと思っています。お金もみんなで集めるということもできると思います。そこに市が応援するというのもできると思います。

そこはいろんな声を聞きながら、とにかく応援を皆でしていけるように我々も考えていきたいと思っています。

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

終わります。

○議長（山口昌宏君）

以上で7番上田議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会します。お疲れさまでした。

散 会 12時15分